

VIEW21

〈ビュー21〉
高校版
Volume 1

2015
April

4月

目指す 探究と習得の ベストミックスを

特集

新課程全学年全面実施年に考える①

「学び」の意欲を 高める探究学習

指導変革の軌跡

岩手県立遠野高校
大阪府立芥川高校

新コーナー 改良! 指導ツール ビフォーアフター
1年生

生徒理解を深める面談ツール
他にも、2つの新コーナーがスタート!

半歩未来を考える教育オピニオン

三位一体の高大接続改革で
入試や高校教育は変わるのか

目標は全国大会で勝ち上がり、 国立劇場の舞台に立つこと



1

① 日本で最も古い民謡と言われる「こきりこ」を東京・国立劇場で踊る。全国高等学校総合文化祭の優秀校だけに与えられる晴れの舞台。

② 平家落人伝説を結び付けて伝承されてきた「麦屋節」。全国大会に向けての演目選び、そして練習内容も極力生徒主体で考えることで、生徒の中に主体性が芽生え、練習も活性化。

③ 2014年度の全国高等学校総合文化祭の郷土芸能部門には、全国から52チーム、1300人の高校生が参加。南砺平高校は文部科学大臣賞・最優秀賞を獲得し、頂点に立った（円内は最終発表を待つ生徒）。



2



3



ハートを
こがせ!

Vol.01

富山県立南砺平高校
郷土芸能部

全校生徒100人の
小さな高校だけれど、
目指すのは常に日本一

部員の心が1つになった時
観る者の心を震わせる演技が出来る

富山県立南砺平高校は、日本最古の民謡と言われる「こきりこ」や、平家の落人伝説に基づいた「麦屋節」など多くの民謡が残される越中・五箇山地域にある。同校の郷土芸能部は、全国高等学校総合文化祭に1994年から21年連続で参加し、最優秀賞2回を含む15

回入賞、優秀校東京公演10回出演を誇る。全校生徒の約半数の48人が部員だが、生徒数の少ない同校では、専部は他部の存続にかかわるため、全員が運動部や文化部との兼部だ。小さな強豪校の部員たちのハートには、どんな炎が燃えているのだろうか。

勉強と2つの部活の
両立は大変だけれど
続ける理由がある



4



5



6

④ 地域から十数人の指導者がボランティアで参加。学校と連携し、「五箇山民謡の伝承、人間形成、伝統文化や郷土を愛し心豊かに生きる生徒の育成」など指導方針を共有する。

⑤ 練習時間は兼部している部活動終了後の19時～21時頃。1学期中は全国大会に向けて、2学期以降は全国公演のため、連日のように練習が続く。

⑥ 練習では、生徒同士が話し合う時間を大切にしている。生徒に考えさせることで責任感が高まり、緊張感のある練習につながる。

**探究と習得の
ベストミックスを
目指す**

◎次期学習指導要領でも重視されることが予想される「探究学習」。しかしながら、多くの先生がその必要性を感じながらも、取り組めていないのが実情のようです。探究か習得かの二者択一ではなく、2つのベストミックスを考えるという視点を持つことが、探究学習導入への1つの突破口になるのではないのでしょうか。

『VIEW21』高校版
編集長 柏木崇

2 新コーナー チカラ アワセテ

同じ理想、異なる手法で生徒の主体性を育てていく
福岡県立田川高校 3学年団◎山口勝利、山形啓二

4 特集

新課程全学年全面実施年に考える① 「学び」の意欲を高める 探究学習

- 6 実践事例①** フィールドワークや外部連携等で生徒の「器」を広げる探究学習に
宮城県仙台二華中学・高校
- 10 実践事例②** 1年生から積み重ねる体系的な探究学習で「真の探究」を目指す
福井県立高志高校・中学校
- 14 実践事例③** 総合的な学習の時間と教科を連携させた探究学習を実施
静岡県立沼津西高校
- 18 座談会** 探究のエッセンスを維持して、自校のスタイルを確立する
京都市立堀川高校 飯澤 功 / 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代
ベネッセ教育総合研究所 初等中等教育研究室室長 東京大客員准教授 木村治生

22 新コーナー ハートをこがせ!

富山県立南砺平高校 郷土芸能部
心を込めた舞台は自分の頭で考え、取り組んだ練習の成果

24 指導変革の軌跡

岩手県立遠野高校
地域連携・進路学習◎地域連携を無理なく継続、様々な体験活動で生徒に将来を考えさせる

大阪府立芥川高校
進学実績向上◎生徒の視野を広げ「行きたい大学」を目指す指導を徹底

32 新コーナー 改良! 指導ツール ビフォーアフター

1年生 生徒理解を深める面談ツール

36 半歩未来を考える教育オピニオン

三位一体の高大接続改革で入試や高校教育は変わるのか
文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室室長◎橋田 裕

42 未来をつくる大学の研究室

生殖機能の仕組みを明らかにし、家畜の繁殖効率を高める
名古屋大大学院 生命農学研究科 栗村博子研究室

46 VIEW'S REPORT

生徒に付けたい力を起点とした授業づくりへの転換を!
これからの社会を生きていく力を育むアクティブ・ラーニングとは?
横浜国立大教育人間科学部教授、学部長特任補佐(教職大学院担当)◎高木展郎

52 Reader's VIEW

<http://berd.benesse.jp> 本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます

*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます
*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製および転載を禁じます



福岡県立田川高校 3学年団 山口勝利 + 山形啓二

同じ理想、異なる手法で 生徒の主体性を育んでいく

**主体的に動く体験を通して
生徒に自信を与えたい**

山口 山形先生は、同僚であり、教える子でもあります。約20年前、国語の授業を3年間担当しました。山形くんは、生徒主体の修学旅行を企画するようなスーパー生徒会長で、実際、教師の指示に頼らずに行動する生徒たちを見た旅先の人から、「この学校は生徒が先生を引率しているようだ」と言われるほどでした。当時の学年団では、「この生徒が動けば学年全体が動く。そんなリーダーを生徒の中から育てよう」と話し合っていました。その中で、山形くんが見事に開花してくれました。

山形 修学旅行など、いろいろなことを自分たちの力で動かそうとしたのは、自分に自信を持ちたかったからだと思います。「僕らは、先生たちの手を離れてもちゃんと出来ます」と、行動で示したかったのです。

山口 どんなことでも生徒に任せるほど時間が掛かりますが、その手間を厭うては生徒の成長はありません。最近では、自己主張が苦手で、自分に自信を持ってない生徒が少なくありません。教師が背中を押した時、「先生がそう言

うならやっちゃろう！」と決断できるような信頼関係を構築するためにも、日頃から生徒と対話する時間をたくさん設けたいと思っています。

山形 主体的に動く体験は、進路実現の面でも大きなプラスです。私も、修学旅行などの体験で自分に自信を持ちましたし、具体的なビジョンを描き、そこに至るプロセスを見通す力も付きました。そうした力は、目標にどうやれば近付けるかという意味で、受験勉強でも非常に役に立ちました。

**主体性の育成を待つ指導と
主体性の発揮を仕掛ける指導**

山形 とはいえ、主体的に動き、リーダーとして仲間を引っ張るのは、今の生徒にとっては簡単なことではありません。学校行事の委員長を務めた私のクラスの生徒も、自分の思いや考えを仲間に伝える言葉やタイミングが分からずに、「先生、どうしてもうまく出来ん！」と涙を見せたことがあります。彼が苦しんでいたのは知っていましたが、主体性を育むためには、最低限の言葉掛けにとどめ、とにかく待つことにしました。そして、少しの変化を見逃さずに、褒めるようにしたのです。

**チームワークがあるから
次の手が素早く打てる**

山形先生には、目指すゴールを伝えるだけで、安心して後を任せられます。それはきっと私が、山形先生が高校生だった時の生徒たちを理想の形の1つとしていたから、つまり、山形先生と私が成功体験を共有しているからでしょう。ただ、目指すゴールは同じだけれど、そこに至るまでのプロセスが同じとは限りません。各々の経験や理念を基に指導するわけですから、違いがあるのは当然です。目標は同じだけれど、手法は違う。でも、お互いに尊敬し、職員室でもたくさん話し合います。そうしたチームワークがあるからこそ、困難に直面しても、知恵を出し合い、すぐに次の手が打てるのです。



福岡県立田川高校

山口勝利 50歳

やまぐち・しゅうり 教職歴28年。同校に赴任して3年目。3学年主任。国語科。進路指導部所属。福岡県立小倉東高校、青豊高校、京都高校などを経て田川高校へ。

福岡県立田川高校

◎「水平線上に突起をつくれ」という校訓は、「人にはそれぞれ持って生まれた天分があり、その天分を努力によって生かし、それぞれの分野で有為な人物になれ」と生徒に説く。「英彦山耐暑行進」「寒稽古」など、炎天下や厳寒の中で心身を鍛え、困難を乗り越える強い意志=『嶽南魂』を育む。各学年に『スーパー特進クラス』を設置し、進路目標をより明確化させた指導を展開する。

◎設立 1917(大正6)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約240人

◎2014年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、名古屋大、大阪大、広島大、九州大、熊本大、北九州市立大などに55人が合格。私立大は、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、西南学院大、福岡大などに延べ308人が合格。

◎URL <http://tagawa.fku.ed.jp/>



彼が行き詰まっていることは、山口先生にもお話ししましたよね。

山口 ええ。私も、「授業を真面目に聞いとるけど、内心は苦しんどるんだろうなあ」と思っていました。そして、生徒の様子を把握しようと、休み時間での友達との会話に耳をそばだてて、「このメンバーと、こんな話をしているなら大丈夫だ」と安心したものです。

山形 私の理想は、自ら歩き出した生徒を一番後ろから見守る教師です。

山口 私は、時には働き掛けるのが好きですね。本校は伝統校でありながら、アクティブ・ラーニングに取り組むな

ど、新しいことに挑む気概を持っています。例えば、3学年団の卒業式では、伝統を受け継ぎ、厳粛に式を進めながらも、生徒の号令で校訓を高唱する、生徒主体の場面を盛り込みました。生徒が自立し、教師の手を離れたことを晴れの場で見せたかったです。

山形 卒業式での挑戦を知り、山口先生の熱意と実行力に感動しました。そして、生徒の成長のためには、それぞれの教師が持ち味を発揮することが大切なのだ改めて思いました。過去の経験に縛られず、探究心を持って行動する山口先生は、私の目標の1人です。

手法が違うからこそ高いチーム力を発揮できる

生徒をより深く理解するためには、教師のチームワークが欠かせません。ただ私にも、20代の頃、「自分1人で全部できる」と思い込み、抱え込んだ時期がありました。しかし、それでは何をしているのか周囲に理解されず、学校のためにならないと気付いたのです。ただ、指導は共有しても、同じである必要はないと思います。例えば、私は生徒指導では型を重んじますが、山口先生はまずは生徒の気持ちを引き出してから、型を提示します。でも、生徒に自立してほしいという強い思いは同じです。思いは同じだけれど、手法は違う。だからこそ、高いチーム力を発揮できるのだと思います。



福岡県立田川高校
山形啓二 35歳
やまがた・けいじ 教職歴7年。同校に赴任して4年目。3学年担任。数学科。進路指導部所属。福岡県立育徳館高校を経て田川高校へ。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

新課程全学年全面实施年に考える①

学びの意欲を 高める探究学習

2015年度は、全学年が新課程全面实施となる年。そこで、先行実施年を含むこれまでの3年間の新課程指導を、2号にわたって振り返る。

1回目の今号では、次期学習指導要領でも引き続き重視されることが予想される探究学習について、その現状と課題を押さえた上で、どのような学習活動を行えば、生徒の興味・関心を引き出し、「学び」の意欲を高められるのか、そこで教師に求められる指導や役割は何なのか、考えていく。

高校教育の
今を見つめながら、
未来を見据える

2012年度より、本誌では、環境変化の激しい社会を生き抜くことが出来る人材像と、そのような人材を育成するために求められる高校教育の役割について考えてまいりました。その中で見えてきた人材像とは、どんな環境変化にも流されない、目標や目的、信念、こだわりといった「軸」を持ちながら、その「軸」に基づいて変化に柔軟に対応できる「修正力」を持った人、そして、常に自ら学び続けられる「主体性」を持った人です。そのような姿勢や力を持った人材を育成する上で高校教育に求められる指導を考える時、そのヒントは、高校現場の今の課題にあるのではないかと、これまでの取材や先生方のお話を通じて考えるようになりました。

高校教育の今を未来につなげる
—— そのようなアプローチで、
今年度は高校教育のあり方を考えてまいります。

『VIEW21』高校版編集長 柏木崇

1

探究学習の現状と課題

どのような取り組みが行われているのか

実践事例【P.6~17】

宮城県
仙台二華中学・高校

「世界の水問題」を
共通テーマとした
探究学習の取り組み

福井県立
高志高校・中学校

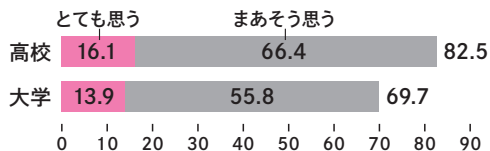
教科横断の課題を学んだ
上で研究テーマを設定する
探究学習の取り組み

静岡県立
沼津西高校

総合的な学習の時間と
教科を連携させた
探究学習の取り組み

探究学習に対する教師の意識

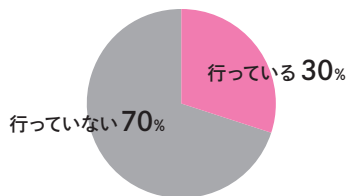
Q. 高校で今まで以上に探究的な活動を充実させた方がよいと思いますか。



注) 対象は、全国の高等学校の校長及び大学の学科長。2013年11月~12月に郵送法による質問紙調査を実施。有効回答数は、高校1228、大学2012
出典/ベネッセ教育総合研究所「高大接続に関する調査」(2014)

探究学習を行う上での教師の課題

Q. 担当の教科・科目で、探究的な学習活動を行っていますか。



探究的な学習活動を行っていない理由(上位3つ)

探究学習を取り上げる時間・余裕がないから
探究学習が出来るほどの学力が身に付いていないから
指導法が分からないから

出典/『VIEW21』高校版読者モニターアンケート結果(アンケートは、2015年1月にウェブで実施。有効回答数は40)

探究学習の必要性を感じながらも、様々な課題により、取り組むのが難しいのが実情

2

課題解決の視点

探究のエッセンスを維持して、自校のスタイルを確立する

座談会【P.18~21】



京都市立堀川高校
飯澤 功



京都大学高等教育研究
開発推進センター教授
松下佳代

- ◎課題設定の方法は生徒の状況次第。ただし、論証や実験は生徒主導に。
- ◎課題解決のために教科の知識・考え方を使う経験が重要。
- ◎探究学習の充実は、生徒の教科学習への意欲を高める。
- ◎教師に求められるのは、生徒の探究を見通した「答えではないアドバイス」と「問い掛け」。
- ◎探究学習における生徒の成長は、教師のモチベーションを高める。
- ◎探究のエッセンスが維持できれば、自由なテーマで、かつ学力に応じた探究学習が可能。

フィールドワークや外部連携等で生徒の「器」を広げる探究学習に

宮城県で唯一、スーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定された宮城県仙台二華中学・高校は、「世界の水問題」をテーマとした探究学習に取り組んでいる。生徒は、地域や海外でのフィールドワークを通してグローバルな視野を養うと共に、教科の学習への意欲も高めつつある。2015年度、探究学習を行う時間が学校設定科目になることを受け、評価方法の開発、ケースブック・メソッドの導入も視野に入れている。

グローバル社会に貢献し、生き抜く力を身に付ける

宮城県仙台二華中学・高校は、宮城県第二女子高校を母体に、男女共学、公立の併設型中高一貫校として2010年度に再出発した。日本の将来を担える真に国際社会に通じる「グローバル・リーダーの育成」を重要教育目標の1つに掲げており、14年度には文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、教育活動を推進している。同校がSGHの中心プログラムに掲げているのが、中高一貫校となっ

た10年度から展開する探究学習だ。再開校準備で学校の特色をどのように打ち出すが検討され、「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）での探究学習がその中心に据えられた。加藤徳善^{のりよし}教頭は次のように話した。「教育方針である社会のリーダーを育てるためには、教科学力に加え、思考力・判断力・表現力や課題発見・解決力を総合的に高めていく必要があります。そこで、女子校時代に総合学習で培ってきた大学訪問や小論文指導などの進路学習を深化させ、より実践的な課題解決を模索する探究学習をしようと考えました」

探究学習の流れ

「世界の水問題」について各自テーマを決めて探究

同校の探究学習について、開始時からの変遷も含めて見ていく。中学校の3年間を掛けて探究学習の基礎的なスキルを学んでから、高校1年生で本格的な探究学習に着手する。1年生での探究学習は2単位で、週1回、2時間連続で行う。「世界の水問題」を共通テーマに、生徒は各自の問題意識に応じて研究テーマを設定する。以前の共通テーマは環境問題だったが、研究対象が広く

なりすぎるため、地元・北上川でのフィールドワークやタイ・メコン川の調べ学習（後述）での実績を生かし、13年度から環境問題の1つである水問題に焦点を当てることにした。探究学習は、人文科学的な手法で解決を探る「インターナショナル・スタディ（IS）」、自然科学的な手法で探究する「サイエンティフィック・リサーチ（SR）」それぞれに設けられた分野に生徒が所属して行う。学年団の教師の専門性に応じて、「IS」は文学・歴史など、「SR」は化学・生物など、1分野教師2人体制で、6〜8分野が設定される（分

「課題研究ⅡA」（3単位）は、1年生での探究学習を踏まえ、各自のテーマを更に深く探究する。メコン川でのフィールドワークも予定しており、参加希望の生徒も多いが、志望動機や研究内容、語学力などを総合的に検討して選抜する予定だ。一方、「課題研究ⅡB」（1単位）は、海外研修旅行（主に東南アジア）での水問題への取り組みが中心となる。15年度は「課題研究ⅡA」が45人、「課題研究ⅡB」が195人という選択結果だった。SGH担当の村上孝志先生はこう説明する。

「『課題研究ⅡA』は生徒への負担が大きく、通常の教科学習と並行して探究学習を進める力のあることが前提となります。履修にはかなりの覚悟が必要です、生徒に伝えました。海外でのフィールドワークのために、英語の文献を読み、英語でインタビューすることも想定しているので、実践的な英語力も必要となります」

3年生では、選択科目「課題研究Ⅲ」（2単位）が用意されている。現時点では2年生の「課題研究ⅡA」履修者のうち10〜20人が選択すると想定し、研究内容についての英語論

文の作成や英語によるプレゼンテーションなどの実施を検討している。

探究学習の進め方

年を追うごとに深まる外部機関・人材との連携

14年度まで行っていた1年生の「IS」「SR」の進め方を見ていく。

まず、各分野では、生徒の希望研究テーマを基に、内容が近い生徒4〜5人から成るグループを、教師が指定して4〜5グループ編成する。各分野に集まる生徒はクラスが混在するため、グループもクラス横断となる。

探究学習はこのグループ単位で進める。以前はグループで1つのテーマを設定し、生徒が分担して探究学習を進め、1つの論文にまとめていた。しかし、ここ数年は、グループ

で活動を進めつつ、生徒個別に研究テーマを設定して論文をまとめる方法にした。グループで調べ学習を分担したり、論文への意見を言い合ったりと、互いを高め合いつつも、生徒一人ひとりの考えを尊重している。

14年度は「水質」「生態系」「治水」などの分野が設けられ、生徒は「きれいな水を手に入れるには」「日本

とタイのかかわり・農村の状況」「水の価格変動がもたらす生活への影響とは」などのテーマで探究学習を行った。年度末には、分野ごとに生徒一人ひとりが研究成果を発表し、担当教師や外部講師の講評を受ける。そして、分野ごとに1冊の研究論文にまとめて1年間の総括とする。

外部の人材や機関との連携は、探究学習の大きなポイントだ。年を追うごとに、東北大やJICAなどの連携が深まり、専門家を招いた講演会や、研究内容・テーマについての助言を受ける機会が増えている。大学教員だけでなく、その教員の指導を受けている大学院生が来校し、各グループに1人ずつ付いて生徒たちを支援することもある。

15年度に始まる「課題研究Ⅰ」では、探究学習の進め方はこれまでの方法を踏襲しつつも、分野設定が変わる。「IS」「SR」では教師の専門性に依拠して分野を設けていたが、「課題研究Ⅰ」では外部人材の専門性に依拠して分野を設定する。15年度は「人間」「経済」「環境破壊・災害」の3分野だ（図2）。その中に、「水問題と日本の食卓とのつながり」「水

力発電とダム建設」などの小テーマを用意し、その中から自分の研究テーマを生徒が選ぶ形式とした。教師は、生徒の探究学習を支えるアドバイザーであると同時に、外部人材と生徒をつなぐコーディネーターとしての役割を担うことになる。

取り組みの成果

生徒の「器」を広げることが学習意欲に結びつく

探究学習が進路選択に与える影響は大きい。研究内容に関連する学部・学科への進学を希望する生徒、外部講師や大学院生に憧れて東北大を目指す生徒が増えているという。また、クラス横断でグループ活動を行うことで、互いに高め合う雰囲気や学校全体で醸成されていることも大きな成果だ。海外の水問題を調べる中で各教科の知識や考え方の必要性を痛感し、教科学習に力を入れる生徒も少なくない。更に、海外をテーマにした探究学習を通して、世界を見る生徒の目も変わりつつある。

「メコン川流域の実情を学ぶ中で、自分たち日本人ならば課題に感じるものが、現地の人々には問題視され

図2 2015年度「課題研究Ⅰ・Ⅱ」のテーマ

	課題研究Ⅰ	課題研究Ⅱ A				課題研究Ⅱ B
	北上川／東北地方	メコン川／東南アジア				シンガポール／グアム
		汽水域・海・漁村	山岳民族・山村	農村・田舎	都市	
人間	伊達家による北上川治水の歴史と農村開発、仙台市による治水の歴史、水のある風景の癒やし効果、水問題と日本の食卓とのつながり	エビ養殖にかかわる過酷な労働環境、外国からの不法労働者と人権	奇麗な水の不足、貧困、感染症、出稼ぎ労働、HIV、公衆衛生の教育の不足	水信仰、水祭り、奇麗な水の不足、貧困、感染症、出稼ぎ労働、HIV、公衆衛生の教育の不足	急激な人口の増加にインフラ整備が追いつかない、生活用水の不足、上下水道の国際援助	水源の不足による慢性的な水不足、生活用水の不足、水国の依存することに関する安全保障上の問題
水問題を考える視点	胆沢地区の水利権争い、上下水道の整備、水力発電とダム建設、浄水場の急速な過と緩速な過	マングローブ伐採による生活の糧の消失、フェアトレード、地産地消と世界経済の功罪、乱獲による漁業資源の減少	インフラ整備と政治的対立	国際河川の水問題、上流国による独占、農業用水の確保、フェアトレード、地産地消と世界経済、商品作物の功罪、パーチャル・ウォーター、携保ジャパンによる天候インデックス保険	人口増加と経済発展、工業用水の確保、水企業の寡占状態、日本の水産業と先行メジャーとの闘い、赤シャツと黄シャツの対立	農業用水・工業用水の不足、真水をつくるコスト
環境破壊・災害	ダム建設による環境破壊、旧松尾鉱山の坑廃水処理、松尾鉱山跡地への植樹活動、津波・洪水	輸出用のエビの養殖によるマングローブ林の伐採、放棄池の水質汚染、地球温暖化による塩害	焼き畑農業、農地への転用、木材伐採による森林破壊で森林の保水力が弱まり、洪水が発生しやすい	農村開発と環境破壊のジレンマ、上流国による汚染、深く掘った井戸のヒ素中毒	地下水のくみ上げすぎによる地盤沈下、地下水のヒ素中毒、地球温暖化による洪水被害の拡大	水源確保のための森林保護、台風の被害を最小限に台風と産業活動

*学校資料を基に編集部で作成

ていないことが分かったという生徒もいました。日本人の主観で現地の人々の幸福度を測れるとは限らないのです。そのような経験が、世界の人々との価値観の違いを知る機会にもなっています」(加藤教頭)

探究学習が大学入試に対応する学力の向上に寄与するかという点については、「直接の相関は見られないが、土台をつくる上で必ず役に立つ」と村上先生は強調する。

「生徒の『器』を広げていくこと

が、探究学習の大切な役割の1つと考えています。教科横断的な学習を通して知識や情報の範囲を広げると共に、ものの見方・考え方や将来の可能性も広げていく。いろいろな面での『器』を広げることで、個々の教科で学ぶ内容に関連付けて物事を理解したり、知識の不足を感じて教科学習に力を入れたりすることが出来るようになるのだと思います。探究学習で学んだことは、必ず教科学習にも生きて、グローバル社会を生き抜く力の土台にもなるはずですよ」

今後の課題

探究学習の評価方法の開発とケースブック・メソッドの導入

今後の課題の1つは、評価方法の開発だ。「IS」「SR」は総合学習であるため、生徒の研究成果に対する評価を行っていなかったが、学校設定科目となる15年度からは、5段階評定で評価する予定だ。

「研究論文は、評価材料の1つになるでしょう。ただし、研究論文からは、課題発見能力や研究遂行能力

を見取ることは出来ても、課題設定の段階で、どこまで自分の力で調べたのか、担当教師の助言があったのかといった点まで追跡することは難しいと考えています。そのため、ポータルサイトを活用し、論文の中身やプレゼンテーションの様子などから総合的に評価していく方法になると思われます」(加藤教頭)

もう1つの課題は、「ケースブック・メソッド」の導入だ。これは、事例研究を重視した学びのスタイルで、ロースクールやビジネススクールで実践されている手法である。

「15年度以降は、単に生徒が文献を調べて論文を書くだけでなく、担当教師と生徒が意見を交換しながら考えを深めていくような指導を取り入れていきたいと思っています。その方法の1つとしてケースブック・メソッドの導入を検討中です。答えが1つではない課題について、それぞれ考えを深めていく中で、探究の面白さや醍醐味を感じさせられるような活動を展開していきたいと考えています」(村上先生)

1年生から積み重ねる体系的な探究学習で「真の探究」を目指す

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校である福井県立高志高校は、理科で行っていた探究学習を2年前から普通科にも拡大して実施している。1年生で探究学習に必要な幅広い教養を身に付け、2年生でグループ研究を行う体系的な指導を構築。実証的な探究学習を目指す中で、生徒は探究の面白さに目覚め、教師は教科の授業改善へ意識を向け始めている。

SSH指定11年目を機に探究学習を普通科に拡大

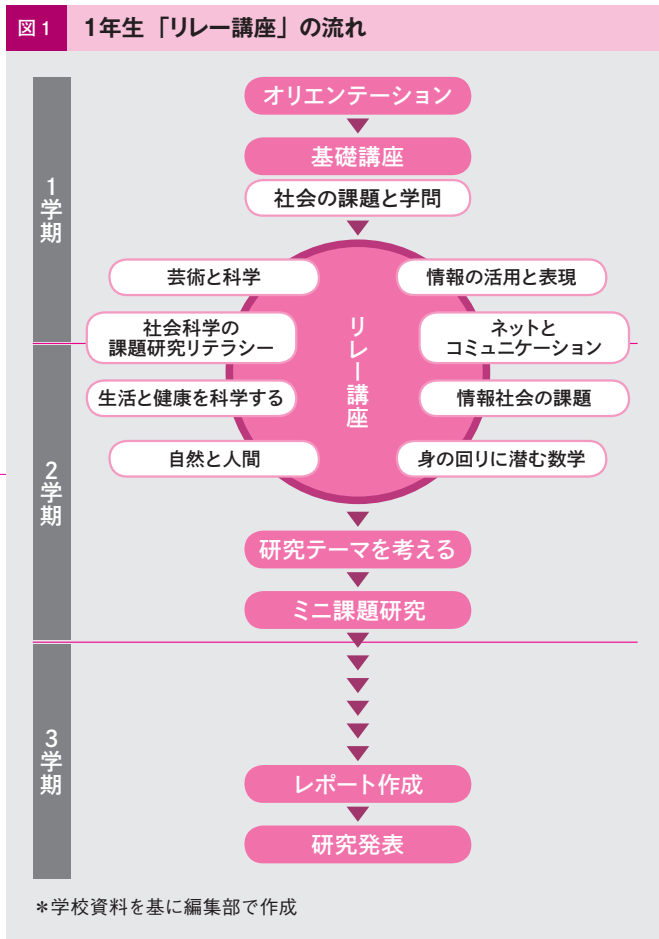
福井県立高志高校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された2003年度から理数科で探究学習に取り組んできた。13年度、第3期の指定を受けたのを機に普通科にも探究学習を拡大。14年度にはスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定も受け、この年の1年生から、普通科の生徒はSSHとSGHの各コースに分かれ（*1）、探究学習に取り組んでいる。両コースに共通する流れは次の通

り。1年生は探究学習の基礎となる教養とスキルを学び、生徒個々にテーマを決めて探究学習に取り組む。2年生では1年間を掛けてグループ単位で課題研究を行い、3年生では更に探究を深めつつ、その成果を英文でまとめて発表する。普通科SSHコースの現2年生、SGHコースの現1年生の取り組みを紹介していく。

コース共通講座の概要

8つのテーマで教科横断の課題を学ぶ

1年生は、「SF探究I」「グローバル探究」の授業で探究学習に取り



*1 各コースの人数は、SSHコース約220人、SGHコース80人。1年生2学期から生徒の希望によってコースが分かれる（希望者が多い場合は選抜）。ただし、授業でコースに分かれるのは、SSH及びSGHに係る学校設定教科・科目の時間だけであり、通常の教科の授業は学級ごとに行われる。なお、学級は2年生から文理別となる。

組む。1・2学期に行う両コース共通の「リレー講座」(図1)で、探究学習の手法を学ぶ。最初に「社



福岡県立高志高校・中学校教頭
吉田 繁 よしだ・しげる

教職歴31年。同校に赴任して2年目。「最悪の事態に備えつつ、リスクを取って、最高の結果を望む」



福岡県立高志高校・中学校
松田 純典 まつだ・よしのり

教職歴28年。同校に赴任して11年目。SSH事務局長。「知る。感じる。考える。伝える。行動する」



福岡県立高志高校・中学校
山内 悟 やまうち・さとる

教職歴28年。同校に赴任して5年目。SSH事務局長。「意見・考えに焦点を当てた授業で英語4技能の向上を」

福岡県立高志高校・中学校

- ◎2015年度、併設型中高一貫校となり、6年間を通じた探究学習を教育の柱の1つに据える。スーパーサイエンスハイスクール(SH)、スーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校。
- ◎設立 1948(昭和23)年
- ◎形態 全日制/普通科・理数科/共学
- ◎生徒数 1学年約350人
- ◎2014年度入試合格実績(現浪計)
国公立大は、北海道大、東京大、福井大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大などに257人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ518人が合格。
- ◎URL <http://www.koshi-h.ed.jp>

会の課題と学問」と題して、社会の課題がどのように実際の技術に結び付いているのかを実例と共に見ている、複雑な課題を解決するためには、文理にまたがる分野の知識・スキルが必要になることを理解していく。その後、各クラスで「情報の活用と表現」「芸術と科学」などの教科融合の8講座をそれぞれ4時間実施。教師は教科横断で2〜3人のチームとなり、8講座のいずれかを受け持ち、ITで指導しながら探究学習の材料やテーマとなる話題を紹介する。

SSHコースでの探究学習の進め方

グループで1テーマ、1年間、じっくりと探究

SSHコースでは、その後、1年生2学期の中頃から「ミニ課題研究」に取り組み。生徒は、国語・数学・地歴公民など教科と対応した領域(*2)に所属。領域の内容に応じた研究テーマを自分で設定し、探究を進める。生徒は所属したい領域を第3希望まで挙げ、学年団が人数調整をして指導教師を決める。SS

H事務局長の松田純典先生は、「『SF探究I』は、あくまでも2年生で本格的な課題研究に向けた練習です。希望とは異なる領域になることもありますが、テーマ設定のポイントや探究方法、発表の仕方などを学ぶのが大きな目的であると生徒に伝えていきます」と説明する。

実施初年度の13年度1年生は、「素材による摩擦力の違い」「様々な楽器の音の測定」などの研究テーマに取り組んだ。最終的には研究成果を1枚の模造紙にまとめ、領域内で1人5分程度の発表を行った後、学級でも数人ずつが発表し、異なる領域間で研究内容とその成果を共有した。

2年生では、「SF探究II」で本格的な課題研究に取り組み。「SF探究I」と同様に、生徒は23領域から1つを選び所属。担当教師が事前に探究領域の概要を示し、生徒はそれを聞いて希望の領域を決める。14年度の2年生は、物理担当の松田先生が「力と運動の関係について」、数学(指導教師は4人)では「統計」「確率」などを探究領域にした。

1領域は15人程度で、領域内で3、4人の小グループをつくり、グループごとにテーマを決めて探究を進める。グループ分けの方法は領域によって異なる。希望する研究テーマが近い者同士でグループをつくる場合もあれば、グループをつくってから研究テーマを考える場合もあった。例えば、物理では、生徒全員が自身の研究計画を発表し、仲間を募ってグループをつくり、グループのテーマを決めて研究計画書を提出するという方法にした。テーマが簡単すぎる場合や計画の見通しが甘い場合などは、何度も計画書を修正させた。

14年度の2年生は計98グループがつくられ、「気体の音速と分子量の関係」(物理)、「外的環境が与える髪の毛への影響」(生物)、「確率(ブラクジャック必勝法)」(数学)、「日本と外国のボディランゲージの違い」(英語)など、文理にわたるユニークなテーマが設定された。その後、6月、9月、12月に領域内で中間報告を行い、更に研究を深めていき、15年2月、体育館で全グルー

*プロフィールは2015年3月時点のものです

*2 「SF探究I・II」とも、「領域」はそれぞれの指導教師が掲げるテーマを1領域と数える。2013年度1年生の「SF探究I」は指導教師16人で16領域、14年度2年生の「SF探究II」は指導教師23人で23領域が設定された。

ブがポスターセッション形式の発表会を実施した。発表会には1年生全員も傍聴者として参加。これから自分たちがどのような研究をしていくのかをイメージさせる機会とした。

困難に立ち向かえるよう叱咤激励するのが教師の役割

研究は困難の連続だ。特に理系の領域では、「測定装置がうまく動かない」「データを取り忘れた」といったトラブルが少なくなかった。そのため、研究が1か月間止まってしまったグループや、最終的に結論を得られなかったグループもあった。結論が出ない場合は、研究の過程をたどり、失敗の原因を分析して発表することとした。吉田繁教頭は、「失敗も学問の進歩にとって貴重な成果です」と前向きに捉える。

時には、教師が生徒にハードルを設ける。6月に行う1回目の中間発表では、領域内で各グループが研究テーマ・方法・計画を紹介した。その際、教師はどのグループに対して、どのテーマ設定や計画の甘さなどを指摘し、生徒たちに再考を促したと、SGH事務局長の山内悟先生は話す。

「漠然としたテーマでは、後々、研究に行き詰まります。テーマは具体的か、手順は妥当かといった観点の精査が、研究の遂行には欠かせません。また、グループを個別に指導すると時間が掛かりすぎるので、中間発表をみんなの前で発表させる形にし、そこで問題点をしっかり指摘すると共に、他のグループにも同じ課題を意識させることを狙いました」(山内先生)

一方で、グループの個別指導では、励ましやねぎらいの言葉を必ず掛けるようにすることも重要だと、吉田教頭は話す。

「探究学習における教師の役割は、教科書とチョークを使って教える教科指導の時とは明らかに異なります。生徒の壁となって研究の甘さを叱咤する一方、励ましの言葉を掛け、応援をして、生徒の意欲を高める。『教える役割』から『見守り支える役割』への転換が必要です」

インターネット時代だからこそ実証的に探究させる

指導教師は、探究が単なる「調べ学習」になっていないかにも気を配

る。書籍やウェブサイト載っている情報を取り出して紹介するだけでは、真の探究とはいえない。特に、文系領域での探究は難しい。実証的に探究しているか、独自の視点で資料を精査できているかといったことが求められる。例えば、「日本と外国のボディランゲージの違い」をテーマにした生徒は、教師全員に意識調査を行ったり、ALTを通じて県内在住の外国人にアンケートを取ったりしながら、特定のジェスチャーから受ける印象が国によってどのように違うのかを調べた。

「私たちの学生時代と違い、今はインターネットで容易に情報が手に入ります。一見便利に見えますが、簡単に手に入れられることで、表面的な調査しかしていなかったり、中途半端な理解で終わっていたりする可能性があります。ICTを活用した探究学習のあり方を、教師も学ばなければなりません」(吉田教頭)

SSHコースの3年生では、2年生での探究学習を更に深め、英語科教師の指導を受けながら、研究成果を英文でまとめる予定だ。「最終的には英語で議論が出来るくらいの英

語力の向上と探究の深まりを目指したいと思います」と松田先生は語る。

SSHコースでの探究学習の進め方 大学教員を講師とし 現実にある課題に挑む

SSHコースは、1年生の1学期はSSHコースと共に「リレー講座」を受けた後、9月からA講座・B講座の各40人に分かれ、「グローバル探究」連携講座の学習に取り組み(図2)。「SF探究I」と同様、2年生に向けた小規模な探究学習である。

講座はラウンド3まで設けられ、講師は大学教員や企業の社員、あるいは企業の研究員などだ。各ラウンドは7時間、1単元。講師が提示した課題やリサーチに取り組んだ後、講義を受け、最後にレポートにまとめる。これを10・11・12月に各1回、計3ラウンド実施する。

ラウンド1では、A講座に京都大学大学院教授、B講座に東京大教授を迎え、東南アジアの自然資源やグローバル時代のリーダー像について講義を実施。講義では「リサーチで何が分かったか」「疑問はなかったか」など、講師と生徒が意見交換をしな

図2 1年生「グローバル探究」連携講座の概要

■ 講座の進め方

	内容	外部講師のかかわり
1 時間目	テーマの提示、課題の指示、事前リサーチ開始	課題指示
2 時間目	事前リサーチ	
3 時間目	連携授業①	連携授業の実施
4 時間目	連携授業②	連携授業の実施
5 時間目	レポート作成	
6 時間目	レポート作成、発表準備	
7 時間目	発表 (A・B 講座のクロスセッション)	フィードバック

■ 各講座の内容

	A 講座	B 講座
ラウンド1	東南アジアにおける自然資源の持続的利用 ・東南アジアにおける森林資源の持続的利用 ・インドネシアのマングローブ植林地における地域住民の水産資源の利用と生態系修復	グローバル時代のリーダーになる！ 将来グローバル人材として世界に羽ばたいていく生徒が、高校時代に学び、経験しておくべきことは何か。グローバル時代のリーダーとは、どんな人物なのか。そんな人物には、どのようにすればなれるのか。今、何をすべきなのかを一緒に考える。
ラウンド2	・県内企業の東アジアへの進出状況 (福井県内企業で東アジアに進出している企業について概要を学ぶ) ・進出各国についての予備知識 (現地で勤務・生活する上で知っておくべき各国の歴史や文化等について理解を深める)	・東アジア諸国で販売する灯り (照明器具) を製作することにより、東アジアの灯り文化と市場を理解すること、日本の産業を支える「ものづくり」の精神を涵養することを目的とする。 ・東南アジアの山岳地帯に架ける橋梁設計の国際コンペがあることを想定して、国際競争力を有する橋梁を設計し、製作する。構造効率性に優れ、地域のランドマークとしてふさわしい美観を備えた橋梁を追求する。
ラウンド3	グローバル化する経済：日本とアジア経済のグローバル化はどのようなものか？ グローバル化によって世界の経済はどう変わったのか？ 経済の「地域化」が進んでいるのはなぜか？ FTAとは何か？	異文化理解とコミュニケーション ・外国人とのコミュニケーションで大切なことについて考える ・グローバルで活躍できるコミュニケーション術について考える

*学校資料を基に編集部で作成

から進められた。受講後はレポートを作成し、各講座の半数の生徒が入れ替わり、それぞれの講座の内容を報告し合って体験を共有した。

ラウンド2のB講座では、福井大学大学院工学研究科教員が講義を担当。「東アジア諸国で販売する照明器具のデザイン」を課題に、実際にデザインをして英語でプレゼンテーションをしたり、「山岳地帯に架ける橋」を設計してコンペ形式で競ったりと

いった実践的な課題に取り組んだ。

2月には、2年生で行う「グローバル探究」のために、理系5、文系16のグループをつくり、各グループで仮の研究テーマを設定した。山内先生は、「4月以降、更にテーマを深めて本格的な探究学習を進めます。8月に行う予定のタイやベトナムでの研修旅行では、生徒が英語でインタビューをする機会を設け、自信を付けさせたいと考えています」と話す。

成果と課題

教科学習でも課題解決型の活動を取り入れるように

全校で探究学習を始めて2年。早くも生徒に変化が見られている。特に、探究に対する意欲は高く、放課後や週末にも探究学習を続ける生徒が増えたと、松田先生は目を細める。「今まで見られなかった、意欲にあふれる生徒たちの姿を見ると、我々教師も頑張ろうという気持ちになります」

探究学習の指導を通して、教科の授業にも変化が現れ始めている。実施後のアンケートで「学習中心の学習を取り入れた」「授業の中で課題解決型の活動を入れるようになった」と回答した教師が大幅に増えた。

一方、課題は規模の拡大への対応だ。全校生徒が探究学習に取り組むようになったため、実験

室やパソコン室などの利用が重なることが少なくない。現在は、文系・理系で時間帯を分けるなどの調整をしているが、生徒の知的好奇心を支える環境整備が急務だ。また、研究テーマが文理にまたがる幅広い分野となるため、指導は全教科の教師が担当する。教師の専門性と生徒の研究テーマが合致しているかも重要なポイントとなる。このように様々な制約がある中で、いかに施設や人材を最適化していくかは、公立高校にとっては大きな課題といえる。更に、吉田教頭は教師の意識改革の重要性を強調する。

「生徒が生き生きと探究学習に取り組むために、何より教員の意識改革が必要だと思えます。大学や企業、そして生徒や保護者も時代の流れを感じ取り、新しい学びを必要としているように近年強く感じます。逆に、世の中の動きへの対応が遅いのが、私たち教員なのではないでしょうか。学びに対する教員側の意識を変えることが出来れば、学校は一気に変わっていくと確信しています」

総合的な学習の時間と教科を 連携させた探究学習を実施

静岡県立沼津西高校は、2013年度、静岡県から研究指定を受けて「各教科・科目における探究的な学習等研究事業」を実施した。総合的な学習の時間「探求と表現」（以下、総合学習）と連携し、各教科・科目の学習の中で自ら課題を見つけて考察し、その内容を発表する力を身に付けることを狙いとした同校の1年間の取り組みを紹介する。

生徒を伸ばす 新しい枠組みに挑戦する

新課程全面实施学年が入学した2013年度、静岡県立沼津西高校は、総合学習と連携した探究学習を、1年生の国語総合、現代社会、化学基礎、そして社会と情報の4教科・科目で実施した（図1）。その取り組みを、杉浦邦一先生は「教科学習の中だけでは解決できない課題に向き合うため、指導の枠組みそのものを変える挑戦だった」と振り返る。「本校の生徒はとても素直です。授業中の態度は真剣ですし、宿題も

一生懸命やっています。ただ、授業の内容をきちんと理解できている一方で、クラスの仲間の前で自分の考えを表現したり、説明したりするのが苦手です。また、教師の手が離れると、自ら課題を見つめる積極性やや欠ける傾向があります。国公立大志望者が多く、推薦・AO入試に挑戦する生徒も多い本校にとって、自ら課題を設定し、解決に取り組むことができ、更にそのプロセスを他者にアピールする力を育むことは、希望進路の実現のためにも大きな意味がありました」

「自ら課題を見つけて考察し、そ

の内容を表現する力」を高めるためには、従来の教科学習の枠の中での働き掛けを超える大きな変化が、生徒、教師に必要ではないかと考えた同校では、個々の教師の授業内での創意工夫は継続しながら、総合学習と連携して、国語総合、現代社会、化学基礎（P.16 図2）で年間6時間ずつ、そして社会と情報で17時間、探究学習に取り組ませることにした。「資質的に非常に良いものを持っている生徒たちを大きく伸ばすには、私たち教師が培ってきた従来の指導スタイルにこだわることなく、新しい指導に挑戦することが必要で

した」（杉浦先生）

学習観の構築

教師主導から生徒主導へ 討議の中で意思共有を図る

同校の探究学習は、地元・沼津及び静岡県東部を題材に進めることとなった。

4月、探究学習の軸となる総合学習、そして現代社会の時間で、地域の歴史や課題について学び、生徒は研究するテーマを大まかに絞り込んだ。その後、7月からは国語総合の時間で、郷土ゆかりの文学者や文学作品について調べ、9月には、社

会と情報で、それまで現代社会や国語総合で調べてきた内容を更に深めた。そして1月には、化学基礎で地域の環境問題を調べるなど、生徒個々の興味・関心を基にグループを形成し、自分たちが住む地域を多面的に探究することとした。いずれの教科でも、活動の最後にはグループでの発表を盛り込んだ。

「探究学習のブランドデザインは、



静岡県立沼津西高校
杉浦 邦一 すぎのくに くにかず
教職歴35年。同校に赴任して13年目。1学年主任。担当科目は化学。「教師とは実は生徒に教えられている存在である」

静岡県立沼津西高校

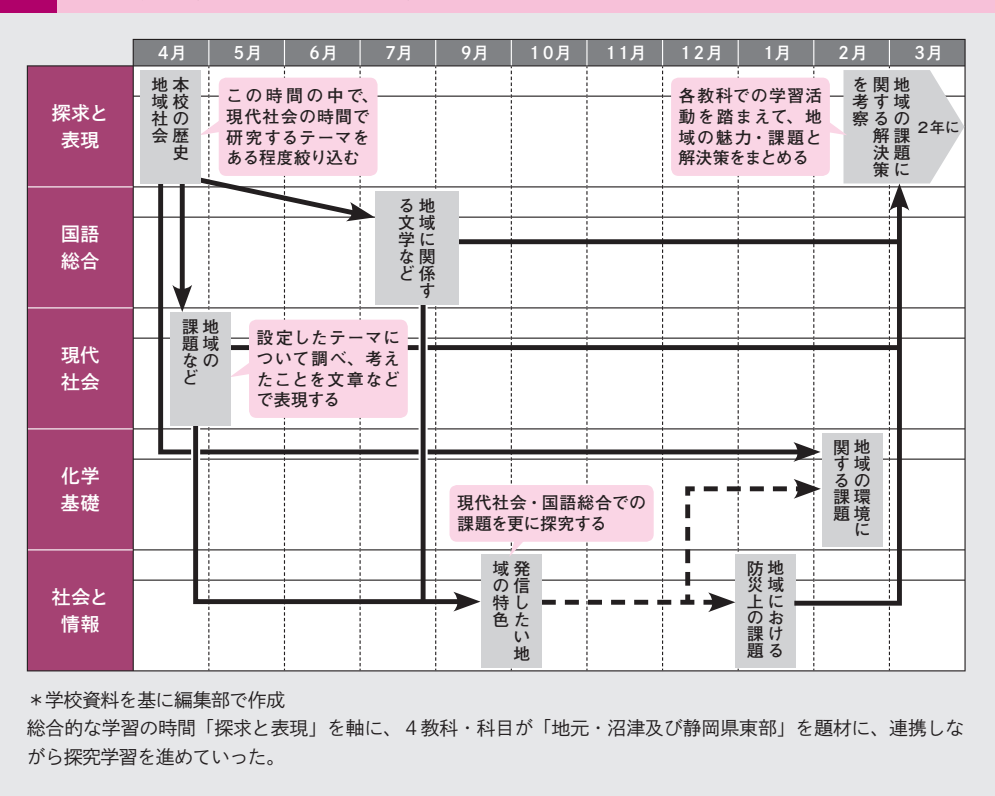
- ◎言語活動を重視した授業改善や外部専門機関と連携した英語指導力向上事業に取り組む。部活動も盛んで、陸上部、フェンシング部、書道部、美術部、箏曲部が全国大会へ出場。
- ◎設立 1901（明治34）年
- ◎形態 全日制／普通科・芸術科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2014年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、東北大、筑波大、東京外国語大、静岡大、静岡県立大などに51人が合格。私立大は、上智大、中央大、日本大、法政大、神奈川大などに延べ356人が合格。
- ◎URL <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/numazunishi-h/home.nsf/>

実施前の1年間を掛けて、全教科担当が参加する教育課程検討委員会で検討しました。そして、実施年度の2013年度には、国語、地歴、理科から2名、情報から1名の担当教師、1学年の学年主任と教務主任、教科主任が定期的に集まり、活動の進捗や課題を共有していきました」（杉浦先生）

「探究」にフォーカスした活動プログラムのあり方を討議、検討する中で、同校の教師自身の意識は大きく変わっていった。当初、検討委員会に参加する教師の中には、通常の教科指導のイメージから抜け出せず、「探究のテーマは、教科書の内容などを基に、教師が設定すればよい」「各教科担当が指導しやすいテーマを選び、その中から選択できればスムーズだ」といった考えが少なからずあったという。

しかし、教育委員会の助言を受ける中で、出来る限り生徒自身に課題を設定させることが、探究の質や生徒の取り組みへの意欲を左右するという共通認識が形成され、「教師に

図1 探究と表現（総合的な学習の時間）と教科における探究学習



よる誘導は極力控える」「夏休みも活用して、生徒のテーマ設定に出るだけ時間を割く」など、指導計

画の修正が行われた。実際、取り組みがスタートすると、探究のグループ分けといった極めて初期の活動か

*プロフィールは2015年3月時点のものです

ら、生徒の自主性に任せた運営と
なったという。

探究学習の進め方

プロセスをチエックし、 可能な限り生徒に委ねる

学びをどう進めていくかを生徒自
身に委ねることで、教師にも様々な
発見があったという。

「国語総合の授業で、地元ゆかり
の文学について研究したいテーマを
募ったところ、教師も知らないよう
な文学者の名前や作品名が挙がって
くることもあるなど、各教科で私た
ち教師が生徒に教わる場面がたくさ
んありました。また、化学の水質調
査では、濁っている様子を科学的に
比較するにはどうすればよいかが議
論となったのですが、生徒たちは自
分たちの経験などを基に、最終的に、
透明度を測る基準液と視力検査をア
イデアにした測定方法を、独力で考
え出したのです」（杉浦先生）

研究成果の発表についても、「最も
効果的だと自分が思う方法で発表
すること」と、発表のスタイルを生
徒に考えさせたところ、寸劇や紙芝
居など教師が思ってもいなかった方

法で発表するグループ
も出てきた。

「普段の授業の様子か
ら、『きつとこんな発表
だろう』と、スタイル
や範囲を我々も予想し
ていましたが、それを
良い意味で裏切るケー
スがたくさんありまし
た。『生徒に任せたから
こそ、学びの範囲が広
がり、想定外が生まれ
たのですね』と教師同
士で話しました」（杉浦
先生）

ただし、テーマ設定

などを生徒に委ねるだけでは、質の
高い探究は実現しない。そこで同校
では、探究の途中段階で生徒に「ワー
クシート」の提出を求めた。（図3）
「設定した課題に基づいて、生徒
がどのような情報収集を行い、その
後の探究をどう見通しているのか
を、ワークシートでチェックしまし
た。研究の切り口だけでなく、イン
ターネットでの情報収集に頼りすぎ
ている生徒には、実際に自分の目で
情報収集できる場所や施設を担当が

図2 「化学基礎」における探究学習

活動内容	
1 時間	課題の設定 クラスの中で班に分かれ、沼津周辺地域の環境問題について話し合い、これまで学習してきた化学の方法で調べることが出来る課題を各班でいくつか考える
2 時間	情報の収集 各課題についての試料の採集方法や実験方法・手順を検討し、最も調べてみたい課題を、各班で決定する
3 時間	情報の収集 整理・分析 決定した課題についての実験について、その原理や方法を確認し、より良い測定のための操作や手順の工夫を考え、実行する
4 時間	整理・分析 実験の結果をまとめ、そこからどのようなことが言えるのかを考察する
5 時間	整理・分析 まとめ・表現 実験結果と考察を班ごとに発表できるように、パソコンや紙などにまとめる
6 時間	まとめ・表現 発表会を行い、発表内容を相互評価する

指導と評価の計画

活動	探究的な学習の内容	評価規準
課題の設定	日本及び静岡県東部地域での環境（大気、河川、海など）についての現状を資料を見ることが出来る。その中から対象を選び、それに合った測定方法を調べ、対象及び実験方法への興味・関心から、適切な課題を設定している	環境中にある物質を測定する意義を理解し、意欲的に活動を行っている（関心・意欲・態度）
情報の収集	試料を採取し、各班で計画した測定方法に基づいて実験を行い、実験結果を出している	適切に実験器具を扱い、手順に従って活動している（知識・理解・技能）
整理分析	実験結果を整理し、視覚的に分かりやすくまとめる。班ごとに実験結果から考えられることを話し合い、発表が出来るようにまとめている	簡潔に分かりやすく実験結果と考察がまとめられている（思考・判断・表現）
まとめ表現	実験の結果及び考察を、聞き手に分かりやすく伝える。また、質疑応答の時間を設け、発表者と聞き手のやりとりを行っている	分かりやすい発表となっている。的確な質問ができ、質問に対して、発表者がその場で考え、答えることが出来る（思考・判断・表現）

*学校資料を基に編集部で作成

上記は「化学基礎」における活動内容と、指導・評価の計画。同校の探究学習は、特に課題の設定の部分に重視したため、冬休みなど長期休暇を課題設定に必要な情報収集の期間に充てるようにした。

紹介しました。探究学習の成果とし
て、『ネットの情報に頼りがちな生
徒が、地元の資料館や河川など、実
際に足を運んで実物を見る活動を体
験できた』ことを挙げる教師は少な
くありませんでした」（杉浦先生）
ユニークな発見だったのは、探究
学習におけるベテラン教師の存在感
の大きさだと杉浦先生は振り返る。
「実はたまたまだったのですが、
国語、理科、地歴はベテランと若手
のペアで教科担当を組んでいまし

た。若手教師は探究学習やそこで行
われるアクティブ・ラーニングに比
較的抵抗感なく取り組んでいました
が、私自身驚きだったのは、ベテラ
ン教師の働き掛けで探究の質が深ま
る場面が多々見られたことです。実
験の方法などで生徒が行き詰まった
時に、視点を変えたアイデアを提示
するよう言葉掛けはベテランの先
生の方が上手でした。そして、研究
成果を発表する段階でも、ベテラン
の先生が担当したクラスの方が、自

図3 探究のプロセスを確認するワークシート



*学校資料をそのまま掲載

各教科での探究の過程で、生徒は担当教師に情報収集の状況やそれを基にした課題設定などをワークシートにまとめて報告した。教師は生徒が学びをどのように見通しているのかをチェックした。

れてみようと思ったのです。そこで14年度は、モルを扱う単元では、生徒をグループに分け、1題ずつ問題を与えました。生徒には『どんな説明をすれば、みんなが理解できるか』を検討させ、班ごとに発表させました。化学基礎という基礎科目だから出来たこと

かもしれないませんが、生徒同士の言葉だと伝わるのでしょうか、私が説明していた時と比べて、分からないままで授業を終える生徒は確実に減りました」

杉浦先生は「これまでは、自分の知っていることを出来る限り生徒にインプットしてあげたいという意識が強すぎたのだと自覚した」と語る。だが、探究学習の指導を経て、「本校の生徒の潜在能力を信じて、もう少し生徒に任せる部分を増やしてもよい」と気付いたという。

「生徒に任せることで時間が掛かった場合は、授業で取り上げていた発展的な内容を宿題に回すなど、授業で取り上げる内容を精選して対応しました。それでも、授業で興味を持った生徒は自ら学習に取り組み、力を伸ばしていききました。教科学習を進める上で、動機付けがいかに大切か、改めて実感しました」

2013年度の研究事業を経て、14年度からは、各科目で取り組んだ探究学習を総合学習の時間に盛り込んで実施し、ポスターセッションや

ディベートへとつなげることになった。また、言語活動の充実をテーマにした授業改善、外部専門機関と連携した英語教師の指導力向上事業などにも取り組んでいる。

2013年度の探究学習の取り組みは、生徒の課題設定力や表現力などの面で、すぐに大きな変化をもたらしたわけではない。ただ、それでも1年間の活動によって、教師が「本校の生徒は、チャンスさえ与えれば出来る。これまでは、そのチャンスを与えなかったから出来なかっただけなのだ」という考えを持つようになったという。

「学びのプロセスを見通し、その成果を他者に説明する力は、一朝一夕に身に付くものではありません。総合学習を中心に、全ての教科・科目の授業を通じて育成するべきものだと思います。覚えた知識を機械的に再生するだけでは太刀打ち出来ない社会課題が増えている今、より中長期的な視点での成果を見通して、探究学習に取り組むことが求められていると思います」(杉浦先生)

由な発想でのユニークな発表が多く見られたのです。生徒主体で進んでいく探究学習は、むしろベテラン教師の方が力を発揮できると私は思います」

取り組みの成果

担当教科以外の授業を見ることで授業改善が進む

総合学習と連携した教科・科目における探究学習の取り組みは、教師にとっても大きなメリットをもたらした。杉浦先生は「教科の枠を超え

た授業の見直しにつながった」と説明する。

「担当教科以外の授業実践を見る機会がとて多い1年でしたが、多くを学び、それが授業改善につながっています。例えば、私の担当の化学基礎では、モルの計算でつまづく生徒が少なくありません。私はこれまで、生徒が理解できるように、出来るだけ丁寧に説明することを心掛けてきました。しかし、13年度に他教科の授業を見て、自分の授業にもアクティブ・ラーニングを取り入

探究のエッセンスを維持して、 自校のスタイルを確立する

探究的な学習は、多くの教師がその重要性を理解する一方で、導入に様々な課題を感じている。(P.5参照)
時代が求める新しい学びを実現していくためのポイントについて、先進校の教師と「学び」の研究者に聞いた。

探究的な学習とは 自分なりの答えを探す活動

木村 まず、高校における探究的な学習とはどのような活動なのか、改めてお聞かせいただけますか。

飯澤 本校の場合、例えば新入生に対しては、「探究とは、答えがすぐに見つからなかったり、答えが複数あったりするテーマに対して、自分なりの答えを探していく活動である」と説明しています。また、探究の対象となる課題は、生徒自らが自分の興味・関心に応じて設定していくことが理想ですが、生徒の力だけで課題を設定することは簡単ではありません。そこで、必要があれば教師も一緒にあって課題について考え

ます。課題は一度設定したら変えられないというのではなく、探究を進める中で見えてきたことや、新たに芽生えた自分の興味・関心に応じて設定し直しても構いません。課題の再設定という経験を通して、課題の立て方を理解させています。

松下 探究的な学習が求められるようになった背景には、課題を解決させるだけではなく、生徒自身に解決すべき課題を発見させたいという思いがありました。ただ、課題の設定は、ディスカッションやフィールドワークなどを積極的にを行い、多様な世界に出会ってはじめて可能になります。大学生でも課題設定には苦労します。ですから、課題設定を生徒だけで行うのか、それとも教師がサ

ポートしながら行うのかは、その学校の生徒の状況によって決めればよいと思います。ただし、課題を設定してから結論に至るまでの論証や実験といったプロセスは、生徒自らが進めていくことが大切です。

木村 学習指導要領では、総合的な学習の時間（以下、総合学習）だけでなく、教科学習の中でも探究活動を行うことが求められています。総合学習と教科学習の2つの場面で展開される探究の違いはありますか。

飯澤 例えば、理科の探究であれば、法則を再発見させる活動が考えられます。教科書を閉じ、地動説はなぜ正しいのか、自分の知識や過去の経験を基に論証をしていく活動も探究の1つでしょう。総合学習で行

われる探究と比べても、プロセスを体験し、探究的な考え方を身に付けるという点では同じです。ただ、教科学習には、教科書を進めなくてはならないという現実的な問題もありますから、どの単元でどんな探究活動を入れるのか、探究と習得のベクトミックスを模索することは本校の教科指導でも重要な課題です。

松下 大学でも全く同じことが言えます。探究的な活動やアクティブラーニングはそれ自体時間が掛かります。その分、授業時間外での学生個々の学習が重要になります。つまり、探究的な活動を通して、授業外でも自ら学習をしたくなるような学びのモチベーションを高めていくことが求められます。

京都市立堀川高校の 探究的な学習活動について

1年次から段階的に 探究する力を育成する

京都市立堀川高校は、「総合的な学習の時間」を中心に「探究基礎」を設置。「探究基礎」では、教育目標の1つである「探究する力」の育成のため、情報取得の基礎学習から問題解決の体験を経て論文作成に至る取り組みを行っている。活動は3段階に分けられ、1年生前期を探究の「型」を学ぶ期間、1年生後期を「問題発見・解決能力」及び「事実・記述・他者の主張を多面的・批判的に検討し、論理的に考察する力」を身に付ける期間、2年生前期を教師の指導の下、実際に探究活動を行い、発表会などでアドバイスや批判を受ける期間と位置付けている。活動の評価は、「興味・関心を持つ力」「課題を設定する力」「課題を解決する力」「他者に表現する力」の4観点で行われる。

探究活動を進める際、心に留めておくべき「探究五箇条」として、「知らないということを知れ」「常識を学べ」「常識を疑え」「手と頭を動かせ」「朋と愉しめ」を掲げている。

飯澤 ある生徒が私に「三角関数って、必要なものなんですね」と言ったことがあります。これまでの授業での学びだけであれば、三角関数を数学の学習以外の場面で使うことはなかったかもしれません。しかしその生徒は、探究活動の中で自分の課題解決のために三角関数を使ったのです。そうした経験が、生徒の教科の捉え方を変え、教科学習への意欲を高める例は少なくありません。



京都市立堀川高校
飯澤 功 いざわ・いさお

教職歴11年。同校に赴任して12年目。企画研究部部長。担当科目は地学。
京都市立堀川高校◎1908（明治41）年創立。14年度入試では、国公立大は、東京大、京都大、大阪大などに167人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ344人が合格（現浪計）。

正解を教える役割から 試行錯誤を支援する役割へ

木村 学習者が主体的に学びのプロセスを体験するためには、探究学習において教師は生徒にどのような支援をすればよいのでしょうか。

松下 学びが探究的であるほど、試行錯誤が求められるのは、高校生も大学生も同じでしょう。研究が想定通りに進まない時こそ、今自分がど



京都大学高等教育研究開発推進センター教授
松下佳代 まつした・かよ

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士（教育学）。専門は教育方法学、大学教育学。京都大学教育学部助手。群馬大学教育学部助教授等を経て、2004年から現職。著書に『パフォーミングス評価』（日本標準）、『ティープ・アクティブラーニング』大学授業を深化させるために』（編著・勁草書房）など。

のようなプロセスを進んでいるのかを理解する必要があります。教師に求められるのは、生徒の探究の流れを見通した上で、今どこで、どのようなことにつまずいているのかを把握し、適度に手を差し伸べるかわかりだと思えます。

木村 正解に最短でたどり着く方法を教えることに使命感を強く持っている先生方は少なくありません。教え過ぎずに、適度に手を差し伸べるというのは、簡単なことではないと思いますが、いかがですか。

飯澤 本校に赴任してきた先生方には、「探究学習においては、生徒に答えを教えないでください」とお願いしています。生徒は、分からないことは教師に聞けば教えてもらえると思っています。実際、本校の生徒でも1年生のうち「テーマはこれで大丈夫ですか?」「この後どう進め



ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室室長
東京大客員准教授
木村治生
きむら・はるお

*プロフィールは2015年3月時点のものです

ればよいのですか？」とよく聞いてきます。そのような時は「君は大丈夫だと思う?」「どう進めればよいと思う?」と、そのまま生徒に聞き返すようお願いしています。ただし、答えは教えないけれども、「自分が同じ研究をするならどうするか」を考えて、探究を進める上で見逃せないキーワードの提示や参考文献の紹介は積極的に行ってもらうことで、次第に生徒は主体的に探究に取り組むようになります。

松下 学びが探究的になるほど、活動を見通す教師の存在は大きくなりますよね。また最近、調べ学習の発表では「コピペ(*1)」が横行していると言われていました。探究活動に取り組むのは良いことだけれども、「ネットで調べて、まとめさえすればよい」といった誤った考え方を身に付けてしまっているケースも少なからずあります。まず教師自身が、探究とはどのような学習活動なのかを理解し、指導することが重要です。**飯澤** 生徒たちには悪意がない分、「コピペ」は非常に根深い問題です。だからこそ、「コピペはカンニングと同じだ」と強い指導を行うと共に、



「学びのプロセスを見通しながら生徒に『君はどう思う?』と問い掛けていきます」**飯澤**

「コピペ」と「引用」の違いなどをしっかり説明しています。同様に、研究成果のねつ造は詐欺と同じであり、科学を停滞させるという意味で社会に対する罪であると同様でも指導しています。

学びのプロセスを 入試は評価し始めている

木村 大学入試とのかかわりはどうでしょう。探究と習得をどうベストミックスしていくかということ、学校現場での重要な課題です。**飯澤** 先ほども申し上げた通り、探究学習によって、生徒の教科学習への意欲が高まることを実感しています。また、校内調査では、探究学習への取り組み状況と、取り組み後の国語、英語の学力の伸びに相関があることが分かっています。**松下** 堀川高校でも、2年生前期で教育課程上は探究学習は終わりです

よね。大学入試のことを考えなければ、本当は3年生まで探究学習を続けさせたいところです。

飯澤 それは私たちにとって長年の課題でした。これまでは「2年生前期まで」という判断がベストミックスだと思っていました。それが以降も探究を続けたいと強く願う生徒がいるのは事実です。実際に、自主的なゼミを開いている生徒もいます。そこで、2年生後期以降、生徒が自主的に行う探究活動に対して、活動場所と費用を支援する制度をつくりました。40人ほどがそのような取り組みに参加しようとしています。**松下** 大学の中にも、「高校時代に探究学習に取り組んできた生徒が、受験勉強のために探究学習を中断させられることなく、そのまま探究学習を継続させながら大学に入れるように入試を改革したい」と考えている教員は少なくありません。飯澤先

生は、昨今の大学入試改革の動きをどのように見ておられますか。

飯澤 改革の流れを評価した上で、あえて申し上げるならば、生徒の活動の評価を海外コンテスト入賞などと規定してしまうのはもったいないと思います。外部評価は確かに大事だと思いますが、テーマによっては科学オリンピックに出た生徒しか評価されなくなってしまう。生徒一人ひとりの探究のプロセスに目を向けた、独自の評価方法を大学には確立してほしいと思います。

木村 お茶の水女子大の新型AO入試(*2)など、手間を掛けて「学ぶ力」を見る入試も生まれつつあります。

松下 京大の特色入試もそうですが、かなり定員を絞っていますよね。日本の大学は入試選抜の専門家が少ないので、パフォーマンス評価を定員全体で実施するのは現実的にはまだまだ困難です。ただ、定員の一部分であっても、そうした入試の存在は、社会に対するメッセージにはなると思います。

飯澤 あくまで理想ですが、探究学習の指導が資格化されるなどして、高校が探究活動の評価方法・基準を

*1 コピー・アンド・ペーストの略語。文章やデータなどを複写・複製(コピー)して、それを他の場所に転写・貼付(ペースト)すること。
*2 書類審査による第1次選考後、模擬授業やグループ討論・実験など3日間に及び第2次選考を行う(新フンボルト入試)。2017年度入試から導入。



ある程度統一して大学に提出できれば、大学も選抜の負担が少なくなり、高校にとっても、探究活動を評価できる教師が増えることはプラスなはず。

学力の必要性を 探究の中で気付かせる

木村 探究学習は、指導する教師にもメリットがありそうですね。学び

が探究的であるほど生徒は試行錯誤するというお話もありましたが、探究学習を支援することは、教師の指導力の向上にもつながります。

飯澤 指導力の向上だけでなく、生徒理解もとても深まります。探究学習における生徒との対話を通して、生徒の興味・関心を引き出す力も向上します。そして、探究の過程や発表の場面で、生徒の成長を目の当たりにすることで、教師としてのモチベーションが大きく高められます。

松下 大学で、FD（ファカルティ・ディベロップメント）（*3）がうまくいくのは、大学教育の改善を通じて、教員が学生の成長を実感でき、それが更なる改善につながる場合です。ただ、高校生の成長が実感できる場面は、探究学習だけではありませんよね。部活動や学校行事、あるいは入試実績で、生徒の成長や指導のやりがいを感じる先生もいるでしょう。どの場面での生徒の成長に最も喜びを感じるかは、先生によって違っていいと思います。

飯澤 本校は、探究学習に学校と

して力を入れていますが、海外研修や中学校向けの学校説明会、自主ゼミなど、生徒が主体的に活動する場面は他にもたくさんあります。探究で大切にしている力は、学校生活の様々な場面でも生きています。

木村 高校現場で探究学習を導入できない理由として、生徒に十分な学力が身に付いていないことを挙げる先生もいらっしゃいます。

飯澤 土台となる学力が高いほど、テーマの幅やアプローチの選択肢が広がります。しかし、「学力が高くないから探究が出来ない」と考えるのではなく、「学力が高ければ、こういう活動も出来るようになる」と生徒に気付かせたいですし、それが教科学習への意欲にもつながります。探究のプロセスから生徒が学べかどうかは、生徒の学力以上に教



「学びのテーマが自由になるほど探究のエッセンスを維持できるかがとても重要になります」
松下

師の指導力によると私は思います。

松下 探究のテーマはポップカルチャーでもダンスでもよいのです。それらが大学の研究テーマになるように、生徒が興味・関心を持つテーマでも探究学習は十分に可能です。高校の先生方も、「探究テーマ＝学術研究的なテーマ」ととらわれないでいただきたいと思います。そして、テーマが自由になるほど、探究のプロセスが重要であることに気付くはず。探究のエッセンスを維持しながら、生徒や学校に合った活動を考えたいですね。

飯澤 課題設定とその解決の過程を楽しむようになることは、課題の多い現代社会を主体的に生き抜く力の育成につながります。探究学習を通して、主体的に人生を歩んでいく生徒を育てたいと思っています。

*3 教員相互の授業参観、授業方法についての研究会など、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称。

ハートを
こがせ!

Vol.01

富山県立南砺平高校
郷土芸能部

心を入れた舞台は 自分の頭で考え、 取り組んだ練習の成果

どんな気持ちで練習に来たかは
挨拶に表れる

2014年全国高等学校総合文化祭で8年ぶり
2度目の最優秀賞を受賞した富山県立南砺平高校
郷土芸能部。日々の練習で目指すのは、**立方**(踊
りの担当)と**地方**(伴奏音楽や唄の担当)が一体
となった舞台だ。しかし、踊りや演奏が型通りに
出来るようになることと、観る者に感動を与える

富山県立南砺平高校
高田葉月 たかた・はつき
3年生。郷土芸能部部長。卒業後は、大学に進
学し、観光学を学ぶ。

富山県立南砺平高校
荒井絢香 あらい・あやか
3年生。地方パートリーダー。卒業後は、大学
に進学し、経営学を学ぶ。

演技に到達することは全く別物だ。

「踊りと演奏が一体になるとても気持ちが良い
けれど、実際はなかなか合いません。どうすれば
うまくいくのか、いつも悩みます」(高田葉月さん)

地方のパートリーダーを務める荒井絢香さんは
「練習量と同じくらい、演技に取り組む気持ちが大事だ」と考えている。

「踊りと演奏が一体になるかどうかは、気持ちの
部分によるところが大きいと思います。普段の練
習でも、全国大会で賞を取りたいと強く思ってい
る人は一生懸命だけれど、本番はまだ先だと思っ
ている人は真剣さが足りないんです」(荒井さん)
どんな気持ちでその場に来て、演技に臨んでい
るかは、挨拶の仕方、楽器や衣装の扱い方からよ
く伝わってくるという。

「心を入れて挨拶が出来ない人は、その日の練習
も大切に出来ていないと私は思います。そこで、
挨拶の指導も生徒同士でするのですが、声の大き



教師の
思い

技術とは別の
必死さを共有した時
感動が生まれる



富山県立南砺平高校
谷崎孝志 たにざき・たかし
教職歴32年。同校に赴任して10年目。
1学年主任。数学科。郷土芸能部顧問。

心と演技のつながりに
早く気付くことが大切

演奏、唄、踊りが一体となった演技を前
にした時は、あまりの感動で涙が出てきま
す。しかし、そのような演技をすることは
決して簡単ではなく、全国大会の直前くら
いになってようやく目にする事が出来る
かどうかです。技術面とは別の一生懸命さ、
必死さを全員が共有できてはじめて、その
レベルに達するのだと私は思います。高い
レベルを目指すほど、言葉で説明できない
ものを突き詰める強さが必要だと言えます。
練習での挨拶の仕方、衣装や楽器の整理
整頓の状態などは、演技の出来に確実に表
れます。どんな気持ちでその場に来て、演
技に臨んでいるかは、見ている人に伝わる
のでしょうか。「演技の時だけちゃんとすれば

*プロフィールは2015年3月時点のものです



「全国大会で勝ち抜き、国立劇場に行こう！」を合い言葉に、高い目標を掲げて全力で頑張る生徒たち。郷土芸能部に憧れて、遠方から同校に通う生徒も多い。

さは注意できても、心が込められているかどうかまでを注意するのは難しいです。結局、一人ひとりに自分で気付いてもらうしかありません。だから、せめて私は率先して、心を込めた挨拶をしようと思っていました」（高田さん）

目標を掲げ、主体的に練習するから 私たちは強くなった

全国各地から公演に招かれる郷土芸能部だが、週末などに公演が続くと、モチベーションは高まる一方で、「もっとじっくり練習したい」という声も部員から上がってくる。

「目先の公演のためではなく、全国大会を見通

した練習を重視した方がよいのではないかと部で話し合ったこともあります。確かに、全国大会で最優秀賞を取るのには私たちの一番の目標だけれど、公演を通して全国の人たちに地元の民謡の素晴らしさを知ってもらうのも、部の大切な目標です。

だから、全国のお客さんの笑顔を見られることを喜びにして頑張ろうと思いました」（高田さん）

高校3年間で一番頑張ったことは、郷土芸能部の活動だったと高田さん、荒井さんは振り返る。

「息が合わず、練習中に衝突したこともありましたが、みんなで話し合いながら目標に向かって練習することの楽しさや難しさを学びました。また、パトリダーの経験から、何事も自分が率先してやらないと周りについてこないことにも気が付きました。勉強も、後輩の目本になりたいと自分なりに一生懸命やったつもりです」（荒井さん）

「自分は努力できる人間だということ、そしてこの先、勉強も仕事も自分はやれば出来るんだということを部活動から学びました」（高田さん）

民謡の里の小さな学校が、全国屈指の強豪校であり続けるのはなぜか。高田さん、荒井さんは「部員が主体的であること」を理由に挙げる。

「郷土芸能部は、全国大会で優秀賞を取るという目標を全員が共有しているから、自分で課題を決めて、練習を頑張れるんだと思います」（高田さん）

「指導者の方の言葉を待つだけでなく、自分で考え、自分で直していくからこそ、高いレベルの練習が出来るのだと思います」（荒井さん）

いい」という考えは間違っていると、どれだけ早く気付けるかが重要なのです。

一流の舞台に立つことで 生徒は本物に変わる

最近では、少子化の影響で民謡を知る地元の生徒が少なくなり、高校入学後初めて民謡に触れる生徒が増えています。練習はしているのだけれど、型通りで勢いがなく、心に訴えるものがないと感じることも正直増えています。それでも、全国大会で勝ち進み、国立劇場の舞台に立つと生徒は大きく変わります。会場の緊張感、そして一流のスタッフを前にして、生徒は本物になり、そこからは練習への取り組みも一変します。地元の指導者の方も「国立の舞台を踏まんなんあかんがじゃ」と一流の舞台を経験することの大切さを説かれています。

富山県立南砺平高校

◎ 近くには世界文化遺産の合掌集落があり、地域に根差し、伝統文化を脈々と受け継ぐ。郷土芸能部の他、スキー部などの運動部も全国大会に出場。小学校・中学校・高校合同の運動会、マラソン大会、百人一首大会など、学校行事も盛ん。

◎ 設立 1950（昭和25）年

◎ 形態 全日制／普通科／共学

◎ 生徒数 1学年約35人

◎ 2014年度入試合格実績（現役のみ）

4年制大は、富山大、中央大、日本大、早稲田大、関西学院大、同志社女子大などに10人が合格。短大、専門学校19人就職5人。

◎ URL <http://taira-h.ac.tytm.ed.jp/>



岩手県立
遠野高校

地域連携・進路学習

地域連携を無理なく継続、 様々な体験活動で 生徒に将来を考えさせる

◎岩手県立遠野中学校と町立女子職業補習学校が前身。校訓は「修徳尚武」。柳田國男著『遠野物語』の舞台として知られる遠野市の唯一の普通科高校。生徒はボランティア活動や郷土芸能保存会活動など、地域貢献活動に積極的に参加している。また、サッカー部は全国大会常連の強豪。

設立	1901 (明治34)年
形態	全日制／普通科／共学
生徒数	1学年約150人
2014年度入試合格実績 (現浪計)	国公立大は、小樽商科大、室蘭工業大、弘前大、岩手大、秋田大、山形大、福島大、青森公立大、岩手県立大、都留文科大などに34人が合格。私立大は、岩手医科大学、盛岡大、東北学院大、法政大、駒澤大、日本大、東海大などに延べ48人が合格。
住所	〒028-0525 岩手県遠野市六日町3-17
電話	0198-62-2824
Web Site	http://www2.iwate-ed.jp/ton-h/

変革のステップ

背景

◎進路学習の深まりがなく、明確な志望を描けない生徒、志望理由書や面接でアピールするものがない生徒が多かった

STEP 1

実践

◎3年間の進路学習などをまとめる進路ノート「修徳尚武」を開発。遠野市役所や外部機関と連携した体験活動を活発化

STEP 2

成果

◎地域や社会に目を向け、進路をより明確に描ける生徒が増加。郷土愛が深まり、地元で働きたいという生徒も増えている

STEP 3

遠野市や大学、NPO法人などと
連携して学校外で地域活動

遠野駅から程近い商店街に、三田屋という元呉服店がある。この建物の前に、2012年9月、東京から来た建築家や編集者、大学生、遠野市役所の職員、そして岩手県立遠野高校の生徒十数人の姿があった。城下町遠野の町屋の中でも、古くからの暮らしぶりを伝える貴重な建物である三田屋。これを地域資源として活用すべく、遠野市や農業生産法人、大学・高校が一体となって調査・記録を進めるプロジェクトが行われた。建築学を学ぶ大学生の指導の下、生徒はスケッチブックに建物の図面を描き、近隣住民に昔の生活についてインタビューした。「かつての商店街のにぎわいを感じられるものが見つかり、うれしかった」と、参加した生徒は話す。

同校と外部機関とが連携した体験活動は、これだけではない。13年8月には、NPO法人「遠野まごころネット」が主催する、小水力発電を軸とした町おこしの勉強会に生徒が参加。14年8月には、東京大の教授や学生が遠野を舞台に地域活性化を目指す「東京大イノベーション・サマープログラム(TISP)」で1・2年生24人が学んだ。この時、生徒は大学生の指導を受けながら事前学習をし、当日はワークショップに加わって、遠野の魅力や可能性について発表した。生徒は、遠野の「おもてなし精神」を紹

介し、伝統・文化を引き継ぐには過疎化対策が必要であることを訴えた。

進路ノート「修徳尚武」に 個々の進路学習の成果を蓄積

同校が遠野市や大学などと共同し、生徒が参加できる体験活動を始めたのは5年程前のことだ。当時、同校は進路指導で大きな壁にぶつかっていた。進路学習は3年生での調べ学習が中心で、期間が短いために十分に進路意識を深めることが出来ず、志望理由書も満足に書けない生徒が少なくない状態だった。進路指導課主事の助川剛栄先生はこう振り返る。

「当時の志望理由書は、通り一遍の内容が



岩手県立遠野高校
助川剛栄 すけがわ・よしはる
教職歴26年。同校に赴任して6年目。進路指導課主事。「明るく、激しく、やり抜く」



岩手県立遠野高校
島山敏明 はたけやま・としあき
教職歴26年。同校に赴任して6年目。3学年主任。「何事も柔軟に対応しながら、個々の生徒に合わせて指導を構築する」



岩手県立遠野高校
立花裕子 たちはな・ゆうこ
教職歴23年。同校に赴任して3年目。2学年主任。「常に前向きに、生徒の力を引き上げていく」

多く、生徒の意欲が感じられないものばかりでした。体験に裏打ちされた進路意識が醸成されていないので、自信を持ってアピールできるものがなかったからです」

改革の口火を切ったのは、10年度の1学年団だ。当時学年主任だった助川先生を中心に、3年間の体系立った進路指導を構築し、進路学習の取り組みなどを蓄積する進路ノート「修徳尚武」を開発した。講演会や大学見学などの進路学習を、「総合的な学習の時間」やLHRで行えるよう整理し、講演会や大学見学などの記録や、定期考査や模試成績などの結果を記入するワークシートを作り、1冊にまとめた（写真）。

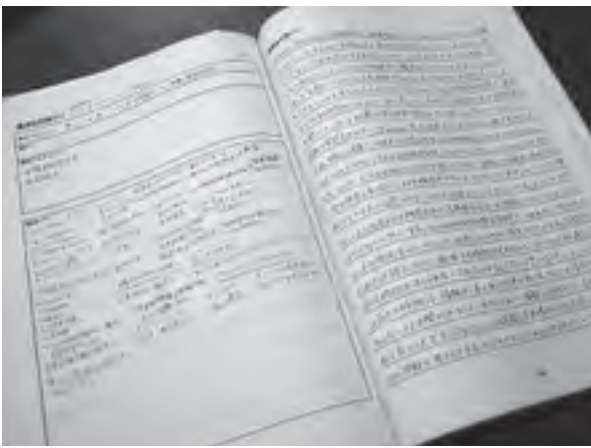


写真 「修徳尚武」の講演会記録では、左ページが講演メモ、右ページが講演を聞いた感想や意見を書くようになっている。右ページの最後の行まで書くように指導した結果、志望理由書はもちろん、授業の中でも自分の考えをきちんと記述できるようになっていった。

むように指導し、その内容や感想を書いて、翌朝には提出させた。感想はページの終わりまで書くように促し、生徒に書くことへの抵抗感をなくさせていった。翌年の1年生もこの取り組みを継承し、今は全学年で「修徳尚武」を活用している。「修徳尚武」が短期間で学校全体に定着したのは、多くの教師が体系的な進路指導の必要性を感じていたからだ。3学年主任の島山敏明先生は指摘する。

「進路学習を生徒の進路選択にどう結び付けていくかイメージが持てず、生徒が体験したことを生かしてきれていないもどかしさがありました。『修徳尚武』によって3年間を見通した指導が出来るようになり、活動を生徒の進路実現にどう生かすか、学年団で目線合わせをしやすくなったのは大きな前進でした」

「修徳尚武」を受け継ぐ学年は、必ず前年度の反省や当該学年の方針に基づいて内容をリニューアルしている。この点も、取り組みの実効性を高め、形骸化を防ぐことにつながった。

「修徳尚武」の導入後、早い段階から志望理由を明確化できる生徒、興味ある分野について進んで理解を深めていく生徒が増えた。また、教師が予期しない成果もあった。

「教科の授業でも、宿題の提出期限を守る、文章はスペースの最後まで埋める、文字を丁寧に書くといった変化が見られました。『修徳尚武』は学年団全員が同じ目線で指導する

ので、教師が大切にしている学習規律が生徒に浸透したのだと思います」（助川先生）

以前の取り組みから活動を継続させる秘訣を学ぶ

「修徳尚武」の活用と並行して、生徒の視野を広げる取り組みを充実させていった。

実は、助川先生がその手法を模索していた時、進路指導部のロッカーで、10年以上前の研究報告書を見つけた。同校は99〜01年度の3年間、県から「総合的な学習の時間」の研究校に指定され、「遠野学」という地域研究に取り組んでいた。それは、環境・自然、地域文化、地域産業など6分野を設け、グループ学習で遠野への理解を深めていくものだった（本誌02年10月号参照）。地域研究の先駆的な取り組みだったが、指定終了後間もなく途絶え、助川先生が赴任した09年度には既に行われていなかった。助川先生はその膨大な報告資料を読みながら、探究活動を継続・実行していくためのヒントを探した。「報告書を見ると、どの活動も内容が大掛かりで、予算規模もとても大きいものでした。そのため、担当者が変わったたり予算が制限されたりすると、継続が難しくなってしまうていたのです。私たちが進路学習を進めるに当たり、その点を踏まえて企画を組み立てることが重要だと学びました」（助川先生）

放課後、希望者のみ、低予算で継続性を重視した講演会に

助川先生は、早速探究活動の再開に向けて動き出した。ここで、先生にとって意外な展開が待っていた。市内で企業見学を行いたいと遠野市役所に連絡すると、「こちらで受け入れ先を探す」という回答があったのだ。この企画は東日本大震災が起きたために実現しなかったが、行政などに依頼すれば進路行事に広がりが見られることを知る機会となった。そして何より、行政やNPO法人なども、高校との連携を望んでいることが分かった。

そこで、助川先生は、地域で活動している人や団体を学校に招いて講演をしてもらう「ミニ講座」を始めた。実施は放課後とし、全学年から参加希望者を募った。講演は無償でお願いし、定例の進路行事として位置付けた。これにより、授業や部活動への影響もなく、低予算で継続的に実施できるようになったのだ。

この講座が軌道に乗り始めた頃、遠野市経営企画部から冒頭に紹介した「三田屋プロジェクト」の打診を受ける。以降、様々な連携の依頼が来るようになった。14年6月には、遠野市と東京の企業が運営する「遠野みらい創りカレッジ」へ参加。これは閉校した市内の中学校を拠点にしたオープンカレッジで、地域住民を対象とするフォーラムやシンポジウムに生徒が参加

し、遠野をより良い街にするための提言をした。同年10月には、遠野市産業振興課との連携により、ものづくり産業振興のために県が企画した「遠野地区人材育成等モデル事業」へ加わる。市内の製造業12社の協力により、1年生全員が8コースに分かれ、3社ずつ見学した。企業には、高校卒と大学卒での就職の違い、社会人としての心構えなど、キャリア教育的な視点での講話をお願いし、生徒はその体験を「修徳尚武」にまとめた。更に、2年生の就職希望者は2日間のインターシップも体験した。

各取り組みの負担を軽減し出来るだけ多くの体験活動を実現

連携に際して、同校では次のような基準を設けている。①生徒の卒業後の進路実現に生かせる、②毎年継続できる、③授業や学校行事、部活動の時間を妨げない、④費用が掛からない、の4点だ。当初は、スケジュールが合わず実施を見送る取り組みもあったが、今では学校の年間行事予定を外部機関にあらかじめ渡し、その予定に合わせて日程を調整してもらっている。

「連携では教師の負担はほとんどない」と助川先生は強調する。企画・運営は実施団体が担い、教師はメールと電話で内容のすり合わせを行う。依頼状や実施要項を作る手間もなく、移動の手配や保険の加入なども全て外部機関が行

う。教師は、全校に企画を告知して参加する生徒を募り、事後には、生徒が体験を書いた「修徳尚武」をチェックし、指導する。

「事前・事後指導について、先生方から『もっと時間を掛けてもよいのではないか』という声もありますが、そうするとどうしても負担が増えてしまうので、なるべくシンプルにしています。視野が狭く、多様な体験に乏しい生徒たちには、体験活動を数多く設けられるような仕組みにしておく必要があります。一つひとつの取り組みの負担を、出来るだけ軽減するように努めています」（助川先生）
そのような思い切った考え方が、継続のポイントだといえるのだろう。

参加していない生徒にも 成果をどう還元していくか

活動への参加は生徒の主体性に委ねられているが、出来るだけ多くの生徒に体験してほしいという教師の思いは強い。建築や町おこしに興味がある生徒や公務員志望の生徒に「三田屋プロジェクト」への参加を呼び掛けるなど、希望進路に応じて参加を促す。教師の役割は、体験活動の運営ではなく、生徒と体験活動との相性を見て、取りまとめることだ。それは、生徒と日々触れ合っている教師にしか出来ない。2学年主任の立花裕子先生は次のように語る。

学校外の組織と連携するコツとは？

教師自身がチャンスに気付くことが大切

進路指導課主事 助川剛栄

外部機関と連携する魅力は、私たち教師が思いつかないような広がりや進路学習にもたらしてくれる点にあると思います。大学教員や大学生、社会人、行政機関の職員など、様々な立場の人と共に体験活動をしていく中で、生徒は地域の課題を実感したり、調査・研究の面白さ、働くことの大変さに気付いたりします。教師の限られた知識と体験だけでは、伝え切れない示唆を与えることが可能だと思います。本校は、私にとって4校目の赴任校となりますが、今振り返ると、どの学校でもこのような取り組みは出来たのではないかと思います。大切なのは、学校外にある機会に、教師が気付けるかどうかです。まずは、学校外とのつながりをつくること。そして、外部から声を掛けられたら、門戸を閉ざさず、「生徒のためになるなら」と前向きに導入を検討する。少し学校の外に目を向けてみるだけで、教育活動の新たな可能性が広がっていくと思います。



東京大イノベーション・サマープログラム (TISP) での様子
東京大の学生と共に、遠野の魅力や可能性を整理、発表した。

「部活動に積極的な生徒に対しては、体験活動への参加を強く勧めていません。部活動の中では、そこで様々な体験が出来るからです。参加してほしいのは、部活動をしていない生徒や将来の展望が描けていない生徒です。体験活動に参加して、目的意識や進路選択の手掛かりをつかんでほしいのです」
進路指導改革を通して、明確に志望を描く生徒が増えたことを、教師たちは実感している。医療現場に赴いて看護師志望への思いを強くした生徒がいる一方で、逆に今の自分には難しいと感じ、進路を変更する生徒もおり、志望をより深く考える契機になっている。

「外部での体験活動を通して、遠野の良さ

に気付いた生徒も少なくありません。地域の課題について考える中で、遠野の発展のために、将来、地元で就職したいという生徒も増えています。単に公務員を目指すのではなく、目的意識を持って就職活動を行う姿勢は、以前には見られないものでした」（助川先生）
今後の課題は、体験活動の成果を参加者以外の生徒にどのように還元していくかだ。15年2月に法政大と行った地域活性化のワークショップでは、参加した生徒と大学生のグループが、2年生全員の前で活動成果を報告した。継続性とのバランスを考えながら、体験活動の機会を出来るだけ確保し、生徒全員の進路意識の底上げを図っていく考えだ。

今回のテーマに関連する過去の記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご覧いただけます。

2013年10月号指導変革の軌跡「新潟県立新潟高校」など

▶▶▶ <http://berd.benesse.jp> → HOME > 教育情報 > 高校向け



大阪府立
あくとた がわ
芥川高校

進学実績向上

生徒の視野を広げ 「行きたい大学」を 目指す指導を徹底

◎「高い人間力と明確な目標を持ち、
弛まぬ努力をする生徒を育てる学校」
を目指す。文系、理工系、看・農・
薬系に加え、2012年度にグローバル
専門コースを設置し、きめ細かい進路
指導を展開する。部活動も盛んで、
和太鼓部は14年に全国大会優勝。ヨ
ーロッパやアジア各国で公演を行う。

設立

1980(昭和55)年

形態

全日制/普通科/共学

生徒数

1学年約300人

2014年度入試合格実績(現浪計)

公立大は、京都市立芸術大に1人が合格。私立大は、京都産業大、同志社大、立命館大、龍谷大、追手門学院大、関西大、近畿大、摂南大、関西学院大、甲南大などに延べ275人が合格。短大12人、専門学校31人、就職4人。

住所

〒569-1027
大阪府高槻市浦堂1-12-1

電話

072-689-0109

Web Site

<http://www.osaka-c.ed.jp/akutagawa/>

変革のステップ

背景

◎潜在能力がある割には自己肯定感を持ちづらく、高い進路希望を見いだせない生徒が目立つ。大学進学は指定校推薦入試に頼る傾向が強かった

実践

◎生徒の視野を広げる進路指導、生徒と教師の1対1の対話を実践。進路と学年・部活動顧問の意識共有による組織力の向上を図る

成果

◎自分の行きたい大学を真剣に考える生徒が増え、進路実績も飛躍的に向上。下の学年に引き継がれる進路指導の取り組みを構築

指定校推薦入試の一覧に群がり 「行ける大学」を選ぶ生徒たち

大阪府立芥川高校の改革は、教師が覚えた違和感を契機に始まった。同校では7年前まで、指定校推薦入試で受験できる全ての大学名一覧を貼り出していた。当時、2学年担任だった一森直子先生は、多くの生徒がその一覧の中から自分が行きたい大学を探していたことに驚いた。「生徒は、学びたい学問や将来の夢よりも、『行ける大学はどこか』という相談をしてきました。年内に進学先を決めて早く楽になりたいという気持ちが強くなり、合格するとその後はほとんど勉強をしませんでした。安易な進路選択の結果、推薦で入学しながらも、大学を中退する卒業生すらいました」(一森先生)

2008年度、一森先生が3学年の進路指導担当になったのを機に、第1志望にこだわる進路指導へ大きく舵を切る。まず着手したのは、指定校推薦入試の校内選考の改革だ。3学年団と連携し、指定校推薦入試の募集が来た大学のうち進路希望調査で生徒が名前を挙げていた大学のみを公表した。更に、推薦を希望する生徒には、志望動機を確認するため、実際にその大学を訪問した報告書を書かせた。

そのような関門を設けたことで、指定校推薦入試の希望者は例年の3分の2ほどに減り、「志望大に行きたい気持ちが強まった」「違う大学

に行きたくなかった」と、自分の意志を明確化させる生徒が増えた。面談でも第1志望にこだわる指導を徹底した結果、産近甲龍（*1）の一般入試合格者が大幅に増えた。志望校への思いが高まり、学習意欲に結び付けばおのずと結果が出る。この改革は、学ぶ意欲と進学実績の相関を、多くの教師が実感する契機となった。



大阪府立芥川高校
一森直子 いちもり・なおこ
教職歴28年。同校に赴任して10年目。進路指導主事。「教育は「人がより良く生きるため」のものである」



大阪府立芥川高校
飯沼雅行 いいぬま・まさゆき
教職歴32年。同校に赴任して6年目。進路指導部。「いつも公平に正直に。生徒にも嘘は言わず、分からないことは分からないと言おう」



大阪府立芥川高校
高階晶江 たかしな・あきえ
教職歴30年。同校に赴任して5年目。進路指導部。「可能性を見つけて信じて励ます、懲りないサポーターでいたい」



大阪府立芥川高校
後藤大介 こうとう・だいすけ
教職歴5年。同校に赴任して6年目。生徒指導部。「生徒が困難から逃げない姿勢を身に付ける指導をしていきたい」



大阪府立芥川高校
有田祐輔 ありた・ゆうすけ
教職歴3年。同校に赴任して4年目。進路指導部。「理想」を掲げず、常に「1対1」で臨むこと」

教師が自ら情報収集に努め 自分の言葉で大学の魅力を語る

「『行ける大学』から『行きたい大学』へ」と指導方針を大きく転換したのが、10年度入学の31期生からだ。この年は市内の中学生数が増え、例年より2学級多い、1学年9学級となり、中・下位層の生徒の増加が予想された。この危機意識から、10年度の1学年団は、生徒が卒業後の進路を意識できるような幅広い情報を伝える指導を行った。学年団の1人だった、飯沼雅行先生は言う。

「生徒の9割が高槻市内から通い、他地域を知らない子がほとんどです。神戸市など通学圏内にある大学に対しても『遠い』と言いつつ、先輩が通っていないければ敬遠する状況でした。社会に対する生徒の視野を広げ、将来への展望を持ったチャレンジ精神を育てる必要がありました」

教師は入学時から絶えず「安易な進路選択はしない」「第1志望にこだわろう」と呼び掛け、自身の大学生活や浪人経験を語り、生徒が卒業後の姿を具体的に思い描けるように努めた。

生徒の視野を広げる上で重視したのは、データの活用だ。過年度の入試データを見せ、「大合格者の7割以上が一般入試で合格しており、指定校推薦入試の活用はむしろ例外的」「A大では後期入試でも3桁の合格者が出る。最後まで諦めるな」などと、生徒に入試の実情を伝

えて意識改革を促した。また、易きに流れてしまいそうな生徒には、ベネッセの進路マップのGTZ（*2）を見せ、行きたい大学に挑戦するよう励ました。更に、同校の最寄り駅の高槻駅からの通学時間、偏差値、取得可能な資格などを記した分野別大学一覧を作成し、知らない大学でも生徒が身近に感じられるように工夫もした。

進路行事も見直した。その1つが、毎年、夏休みに行う「サマーチャレンジ」の改善だ。これは、大学進学希望者はオープンキャンパス、看護師志望者は看護体験、保育士志望者は保育実習というように、希望進路に応じた体験活動を行い、レポートにまとめるという取り組みだ。これまで、オープンキャンパスへの参加は生徒に任せていたが、近場の大学に行って済ませてしまっているなど、志望を育てて深める取り組みになっていなかった。そこで、31期生では、複数の大学に教師が引率する見学会を開いた。

また、3年生1学期には、京都産業大・近畿大・龍谷大などの大学別説明会を実施した。

「説明会では、私たちが大学のガイダンスに参加して得た情報を基に解説しました。大いに頼めば職員の方が来てくれますが、教師が得た知識を、自分の言葉で語ることで、より的確に大学の魅力を伝えられ、生徒の心が動くと考えました」（飯沼先生）

この説明会は生徒に好評で、前記3大学については、以後の学年にも取り組みが定着した。

*1 京都産業大、近畿大、甲南大、龍谷大のこと。

*2 ベネッセのテストにおける共通の評価指標。「S1」～「D3」までの15段階があり、進路マップではそのうちの「A1」～「D3」で評価される。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

進路指導部が中心となり 取り組みを次学年に継承

3年生が1年生に体験談を話す講演会も、31期生が3年生になった時点で始めた。自習室によく来ていた4人の生徒に、1年生全員を前に体験を語ってもらったのが始まりだ。31期生の担任を務めた後藤大介先生はこう語る。

「生徒が『学校の勉強が一番大事』『意識次第で行事はもっと楽しめる』『先生と個別に話すと世界が変わる』など、特に打ち合わせをしたわけではないのに、私たちが最も伝えたいことを話してくれたのには驚きました。3年間の指導を通して、担任団の思いが伝わっていたことを知り、うれしかったです」

先輩のメッセージは1年生の心にも響いた。当時1学年担任だった有田祐輔先生は言う。

「『先輩の話聞いてから行事を頑張るようになった』『進路について調べるように』

図 3年間の進路指導の大きな流れ

1年生

職業ガイダンス（社会で活躍する卒業生による講義）、職業インタビュー

2年生

サマーチャレンジ（インターンシップ、ボランティア、保育実習、看護体験、オープンキャンパス参加など）、大学教授による模擬授業、進路別ガイダンス（受験学習プランニングなど）

3年生

学校別ガイダンス（入試説明会）、就職講座、進学面接指導、小論文講座、看護医療系統講座、など進路別の細かなガイダンスや面談

*学校資料を基に編集部で作成

なった」など、3年生の講演を機に意識が変わった生徒がいました。生徒が出来るだけの情報の情報に触れられるように進路行事を行っています。必ず誰かには届いていると分かり、心強く感じました」

この講演も、3年生が2人ずつ、1年生の教室に行つて語る形式にして、以降継続している。成功した取り組みを、進路指導部が中心となつて次学年に伝えているところも、同校の躍進の要因となっている。

日常的なコミュニケーションを密にし 生徒の内面に迫る

このような効果的な行事を実施できているのは、教師が生徒と日々対話し、その内面を把握しているからだ。

「多くの生徒が、中学校時代の成績から『自分はこの程度』と決め付け、『努力をしても無駄だ』と思いついています。1対1のコミュニケーションを通して、生徒を絶えず励まし、不安を受け止めることで自信を持たせることが大切だと考えています」（後藤先生）

授業中に励ますだけでなく、時間を見つけては、可能な限り生徒と話す機会を持つようになっている。自習室も、生徒と教師が絆を深める場の1つだ。31期生が2年生の時、冷暖房や間仕切りなどを整備したところ、利用率が向上。自

習室で学習していた生徒が、次第に、職員室へ質問に行ったり、教師に進路についての不安を打ち明けたりするようになっていった。

「私が最も伝えたいのは、『人はなぜ学ぶのか』ということ。基礎学力はもちろん大切ですが、それ以上に学習を通して困難なこと、嫌いなことから逃げない姿勢を身に付けてほしいと考えています。今後、多くの困難が待ち受ける人生に立ち向かうために、高校で大きな自信を得てほしいのです。この思いを日々伝え続けた結果、生徒は学習が自身の将来につながっているという実感を持って努力できるようになりました。卒業後もその姿勢を貫いてくれると期待しています」（後藤先生）

「元気をもらいに来た」と、教師に面談を申し込みに来る生徒も多い。「先生はいつも見守ってくれている」という安心感が、受験に向かう勇気を生徒に与えている。

意図や成果を丁寧に伝え 学年団・部活動顧問と合意を図る

新たな取り組みを行う上で、進路指導部と学年団、部活動顧問の合意がうまく図られていることも重要なポイントだ。特に、同校は部活動が盛んで、サッカー部は大阪府の公立高校の中では常に上位、和太鼓部は毎年海外で演奏を行っている。進路指導部の高階晶江先生は言う。

「学年全体で行う取り組みは、まず部員数の多い部活動の顧問に相談をし、日程をすり合わせます。部活動で活躍したいという思いを持って入学してくる生徒も多いので、部活動を続けながら志望を実現させる必要があると考えています。学校として、部活動の活性化と進路実績の向上は、どちらも実現すべき使命です。顧問の先生方もそれを理解しているので、協力関係が築けていると思います」

取り組みの意図をしっかりと伝えることも、連携を図る上で欠かせない。ある時、こんなことがあった。以前から続けている取り組みを進路指導部が学年団に依頼したところ、活動の意義がうまく伝わらず、実施に疑問を投げ掛けられ、危うく頓挫しかけたのだ。

「一方的にお願ひしても、うまくいかないということを経験しました。その取り組みがどのような成果を上げてきたのかを伝え、重要性を認識してもらい、実施に至りました。協力関係を構築するには、取り組みの意図や成果を丁寧に説明し、納得してもらおう必要があることを改めて実感しました」（一森先生）

思考力・表現力の育成と自己肯定感の涵養が課題

ここ数年、同校の進学実績は大きく伸びた。31期生が卒業した12年度、産近甲龍の合格者は

約100人と前年度から倍増し、関西大や立命館大などへの現役合格者も出た。続く32期生からも、同志社大の現役合格者が出るなど、好調を維持した。

「13年度卒業生は、自習室の活用や部活動と学習との両立など、先輩から学ぶことが多かったと思います。先輩の活躍を見て、『自分にも出来る』という自信を持てたことが、大きく影響したのでしょうか」（高階先生）

受験勉強を3月まで頑張り、合格する生徒が多くなったことも、大きな変化だ。「卒業式が終わってからが勝負」という教師の言葉を信じて、最後まで諦めず希望進路を実現する生徒たち。指定校推薦入試に依存していた数年前には

考えられなかったことだ。

今後の課題は、表現力や論理的思考力の育成だ。AO入試の志望理由書に「まずく生徒がいることから、授業や行事を問わず、あらゆる場面で「書く指導」を徹底し、考えを人に伝える経験を積ませたい」という思いがある。

また、自己肯定感を高めることも課題だ。

「生徒に足りないのは、体験に裏打ちされた自信です。思考力や表現力の育成と共に、体験活動を充実させて、そこでの生徒の学びを前向きに評価していきたいと思っています。生徒が堂々と自分をアピールできるように、達成感を持たせる様々な取り組みを考案していく予定です」（飯沼先生）

情熱 若手教師が語る、指導変革への

学びは人生を豊かにすることを生徒に伝えたい

進路指導部 有田祐輔

初任で本校に赴任しました。学力が中堅の高校で、生徒指導上の課題も少ないためか、周りから「良い学校に赴任したね」と言われることもありました。ところが、実際に生徒と接すると、生徒は多くの課題を抱えており、指導すべきことはたくさんあると感じました。自己肯定感の乏しさ、視野の狭さ、基礎学力や論理的思考力の低さ、暗記中心の学習と安易な進路選択……。生徒の課題に気付いてからは、担任として、また進路指導部の一員として様々なことに挑戦しました。日々1対1の面談を繰り返し、生徒の内面に迫り、大学見学や展覧会鑑賞に引率して、視野を広げさせました。国語科担当としては、生徒に論理的思考力が身に付くよう、「なぜ、その答えになるのか」を考えるグループ活動も行いました。

私が生徒に何よりも伝えたいのは、「人生は楽しい」ということです。「君たちの目に映っているものと同じ景色を見ても、僕にはもっと違ったものが見える。花を見て季節を感じ、夜空を見上げて杯に月を映して酒を飲んだ古人のことを考える。学べば学ぶだけ世界は広がり、人生は豊かになる」と生徒に伝えています。

私が幸運だったのは、初任校で進路指導という重責を任せ、周りの先生方と意見を自由に述べ合い、様々な企画を形に出来たことです。これからも、目の前の生徒に何が必要なのかを常に考えながら、新しい取り組みにチャレンジしていきたいと思っています。

今回のテーマに関連する過去の記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご覧いただけます。

2013年12月号指導変革の軌跡「沖縄県立読谷高校」など

▶▶▶ <http://berd.benesse.jp> → HOME > 教育情報 > 高校向け

検討

高校生への切り替えを急ぐよりも
生徒のよりどころを確認すべき?

柳井 1年生の初期指導時の面談で使用する「進路希望調査」は、

生徒が高校生へと意識を切り替えるきっかけと、担任の生徒理解の資料として活用しています。しかし、「生徒の人間関係や中学校での様子を知りたい」という思いから、別のツールを活用している担任もいます。



金田 本校では、4月は学習スタイルを確立することを優先し、具

体的な大学名を聞くのは、夏以降の個人面談からにしています。



高橋 以前、入学式後のHRで、中学校まで自ら積極的に取り組

んだことや、悩みがある時の相談相手などを書かせたことがあります。「**高校卒業後はどうする?」**と急かすよりは、**生徒の心のよりどころや家庭環境を理解したかったのです。**

柳井 自己肯定感の低い生徒が少なくないことが本校では課題となつて

います。中学校時代に頑張ってきたことや**自信があることを語らせること**で、**面談を生徒が前向きになる場**に出来るかもしれませんね。

金田 入学時にSNSの活用マナーについて指導するのですが、他人を傷つけないようにするためには、自分を知り、自分を大切にすることが不可欠だと私は思います。**自分に自信を持ち、自分を大事にすることが出来れば、相手を尊重し、大切に出来るようになるはず**です。そうした面でも、生徒に自分のよりどころを書かせる効果はあると思います。

高橋 私は、生徒に面談シートを全て埋めさせることをあまり重視してはいません。本校には、そもそも書くことが苦手な生徒が多いですし、自分について文字で表現することのためらう生徒もいます。ですから、面談の中で思いを引き出すことが重要です。「**高校生活はどう?」**などとあえて**漠然とした質問を投げ掛け、何を話すかは生徒に任せていま**

す。生徒が話したいことに耳を傾けるといふ姿勢を見せるようにしています。

金田 アウトプットできる生徒は、面談でも自らどんどん話します。面談ツールは、語りたがらない生徒の思いを引き出すきっかけとして活用しています。また、とにかく全てを書かせようとせず、「一生懸命考えて書けないのであれば、それで構わない」というスタンスで、**書けなかった理由を面談で生徒と一緒に考えるようにしています。**

柳井 入学時点で知りたいのは、**志望する大学名よりも生徒の思い**です。例えば、生徒が抱いているのは、地元へのこだわりなのか学問への興味なのかなどを見極めたいですね。

課題と解決策

- 1 中学校時代を振り返り、自分のよりどころや自信の源を見つけさせる
- 2 書けないことを受け入れる。書けない理由を面談で掘り下げ、生徒の内面を把握する
- 3 大学や学部・学科についての知識がないこの時点では、進路を考えるベースとなっている生徒の思いを見極める

学校プロフィール

宮崎県立延岡星雲高校

◎全日制/普通科・フロンティア科/共学/1学年約200人

◎2014年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、横浜国立大、広島大、宮崎大などに36人が合格。私立大は、明治大、同志社大、福岡大などに延べ155人が合格。

群馬県立下仁田高校

◎全日制/普通科/共学/1学年約80人/2年次からアドバンスコース、ビジネスコース、カルチャーコースの3コースに分かれる

富山県立富山高校

◎全日制/普通科・探究科学科/共学/1学年約280人

◎2014年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、東京大、京都大、名古屋大、金沢大などに214人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ420人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ
1年生初期指導の面談ツールを改良!
次ページで紹介します。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

アフター

富山高校では、4月に配布する「個人面接票」で、ニックネームや星座など、誰もが気軽に書ける項目も設けている。更に、趣味や特技などを書かせることで、面談ツールに対する精神的なハードルを一層下げることが出来る。

「頑張っている教科・科目」の項目では、得意教科と苦手教科のどちらを挙げるかは生徒に任せる。重要なのは、その教科・科目を頑張りたい理由であり、生徒によってはそこから進路観を探ることも出来る。同様に、希望進路を詳しく聞くよりも、その理由に注目する様式とした。

未来づくりシート

1年()組()番 名前()

プロフィール	出身中学校	住所
	生年月日	ニックネーム
	趣味	星座
未来づくりの土台	<ul style="list-style-type: none"> • 自ら取り組んできたことで、一番印象に残っていること、やってきて充実感を覚えたことは何ですか？ • 困ったことや悩みがあった時に誰に相談してきましたか？ • 中学生と高校生の違いは何だと思えますか？ • 長所と短所を自己分析すると……？ 	
	長所	短所
	<ul style="list-style-type: none"> • 頑張っている教科・科目を2つ挙げ、その理由も教えてください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 高校生活での目標を1つ教えてください。 	
つくりたい未来	<ul style="list-style-type: none"> • 学校行事や部活動など、特に楽しみにしていること、頑張りたいことを教えてください。 • 希望している卒業後の進路は？ 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 大学・学部などが分かっている人は出来るだけ具体的に 	希望する理由
君の決意	<ul style="list-style-type: none"> • 高校生活の目標を達成するために、こんなことに挑戦してみたい、頑張りたいということがあれば教えてください。 <p>〈君の目標が実現するように、先生たちもサポートしていきます。一緒に頑張りましょう!〉</p>	

高校入学までを振り返り、自分が主体的に取り組んできた活動や長所を書かせることで、自分のよりどころを意識させる。高校に入ってこれまでの自分を全てリセットするのではなく、自分の持っている良さは高校生活の土台となることを理解させる。

卒業後の進路をどのように聞かせるかは、その高校の生徒の志望傾向によって様々な工夫が出来る。→ P.35「生徒に高い目標を持たせる仕掛けのアイデア」参照

活用の流れ

入学前後に生徒に「未来づくりシート」を配布し、面談前に回収

中学校時代の経験、友人関係や家庭の様子、希望進路の理由などを中心に面談。シートに未記入部分については、記入できない・しない理由を探る

面談結果を学年会で報告するなどして、特に気になる生徒を中心に学年団内に周知する

5月の連休明けなど、生徒の体調や心の状態が特に気になる時期には、学年全体で見守り、声掛けを行う

改訂後の狙いと機能

中学校時代までの経験が土台となり、高校生活をつくることを伝える

「進路希望調査」を「未来づくりシート」とし、中学校までの経験（印象に残ったこと、充実感を覚えたことなど）を土台にして、高校での未来づくりが始まることを意識させたいと考えた。

最初に「未来づくりの土台」の項目で、中学校時代の状況を聞き、生徒の強みやよりどころ、人間関係を把握。そして、「つくりたい未来」の項目では、大学・学部名よりもそこを志望する理由、更に高校生活全体の目標を聞くことで、生徒の自己肯定感を高めながら、

生徒理解を進められるようにした。

なお、未来づくりシートに教師から保護者への発信欄を設けるかどうかは意見が分かれた。高橋先生からは「保護者に子どもの状況を伝え、学校に対してアンテナを張ってもらいたい。担当がコメントを書くことが負担なら、学年全体で生徒の状況を分析し、学年通信として発信しては？」という提案があった。一方で、金田先生は「5月には保護者会があるので、この時期は生徒との関係性構築のために、より多くの時間を割きたい」という考えだった。保護者へは、学校の方針や生徒・保護者特性に応じて決定すべきだろう。

ビフォー アフター

活用

中学校時代の楽しさや充実感を土台に
未来をつくり上げることを伝える



柳井 中学校までの自分を振り返りながら自己肯定感を高めるという狙いであれば、その意図が生徒に伝わるように、「未来づくりシート」「ドリカムシート」など、**心楽しくなるシート名が良いですね。**



金田 書きたくなるものや、書きやすいものであればあるほど、生徒の本音が出てきやすいと思います。本校では、個人面接票にニックネームや星座など、気軽に書ける項目を設けていますが、そうした誰もが書ける内容を埋めていく中で、ぼろりと本音がこぼれるようなシートにしたいです。そもそも、つい最近まで中学生だった生徒に、**4月の段階で具体的な志望校を書かせる必要性はあまり高くありません。**むしろ、高校で頑張りたいこと・挑戦したいこと、夢や希望進路の理由を聞いた方が、「未来づくりシート」らしいです。



柳井 素直な生徒ほど、「ひとまず国公立大の名前を書いておけば喜ぶはず」と、教師や保護者に受け入れられる志望を書こうとしているのかもしれない。それではいくら志望先を尋ねたところで意味はないです。**知りたいのは、「何をしたいのか」という生徒の思いです。**

高橋 中学校時代に教師に認められた経験が
少ない生徒ほど、
教師に夢を語りたがり
ません。「未来づくりシート」を回収するまでの期間、
様々な声掛けを通して「**先生は夢を応援するサポーターなんだ」と理解させた**んです。「今週は遅刻してないね。頑張っているね」などと声を掛け、気持ち良く学校に来させて、「ここには自分の居場所があるのだ」と感じてもらうことが大切です。

●生徒に高い目標を持たせる仕掛けのアイデア

- 希望している卒業後の進路は？
- 志望大学いずれかに○
北海道大・東北大・東京大・富山大・金沢大・名古屋大・京都大・大阪大・九州大・その他()
- 理由
- 志望学部系統いずれかに○
人文・外国語・法・経済・経営・商・社会・国際関係・教育・生活科学・芸術・医・歯・薬・理・工・農・体育・その他()
- 理由

富山高校の場合、入学直後に志望大名を詳しく聞くことはしない。6月以降に配布する志望調査票では、生徒に高い目標を意識させるため、志望者が多い難関大の名前をあらかじめ記載しておき、志望する大学に○を付けさせるようにしている。上記のような工夫により、難関大志望を表明することへの抵抗感を軽減することが出来るだろう。

金田 本音を引き出すのは、シートではなく面談ですから、書けないことを責める必要はないと思います。とはいえ、書くことを求めることは悪いことではありません。**「高校では、自分の考えを論理的に説明する力が求められる」と生徒に覚悟させることはとても大事です。**

柳井 若手の頃は、こうしたシートに記入できていない箇所があると、「なぜ書いていないのか」と厳しく指導していました。しかし、「書かない」ということも生徒のメッセージの1つであり、**生徒理解の材料**

料だという意見には、納得感があります。以前、先輩の先生に「面談では沈黙にも意味があるんだよ」と言われたことがあります。全てを生徒のサインとして受け止めることが大切なのだと思えて実感しました。また、まずは生徒の土台となつている中学校時代を振り返らせ、それを教師と共有することで、生徒に自信を持たせるという考え方には、正直、目から鱗が落ちる思いでした。自校に持ち帰って、どう取り入れるか検討します。



三位一体の高大接続改革で 入試や高校教育は変わるのか

文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室室長

橋田裕^{はしだ ひろし}

2015年1月、高大接続及び大学入試改革の議論が一步前進した。高校・大学教育と

大学入試の一体改革をうたった中央教育審議会答申が14年12月に提出されたのを受け、

文部科学省は「高大接続改革実行プラン」を策定し、改革への道筋と具体的なスケジュールを示した。

高大接続を軸とした三位一体の教育改革は、どのような形で実行されようとしているのか。

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室の橋田裕室長に聞いた。

三位一体の高大接続改革で 若者の多様な夢や目標を支える

2014年12月、中央教育審議会が提言した「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」（以下、本答申）は、高大接続改革を初めて現実のものにするために、高校教育・大学教育、及びその両者を接

続する大学入学者選抜のシステムの抜本的な改革を目指すものです。

日本は現在、生産年齢人口の急減や労働生産性の低迷、グローバル化など激動の時代を迎えています。職業のあり方も大きく変わると予想され、子どもたちが将来、社会に出る時には、今は存在していない職業に就く可能性も高い状況です（*）。

これから国内外で活躍する若者たちが、こう

中央教育審議会が提言した 教育改革の方向性とは

◎「高大接続改革実行プラン」の土台となっている「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」は、教育改革の最大の課題でありながら、実現が厳しかった高大接続改革を、初めて現実のものにする方策として打ち出された。最大の特徴は、高大接続の要である大学入学者選抜と、高校・大学における学びや評価のあり方について改革を促している点だ。グローバル化・多極化の荒波にもまれる厳しい時代を生きる若者が夢を抱き、実りある人生を実現するために、教育改革は「待ったなし」の状態だ。しかし、答申では、現在の大学入試は知識の暗記・再現に偏りがちで、思考力・判断力・表現力や主体性を持つて多様な人々と協働する態度などの「真の学力」が評価されていないとし、この状況を克服するために、高校・大学教育と大学入試の一体改革が必要だと指摘。学習指導要領の抜本的な見直し、アクティブ・ラーニングの充実、教育の質を改善するための「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、「真の学力」を評価するための「大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）」の導入も提言している。

*キャシー・デビッドソン氏（現ニューヨーク市立大学大学院センター教授）によると、「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」と指摘されている。



した変化の激しい時代を乗り越え、予測不能な未来を切り拓いていくためには、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を磨き、主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度が必要です。若者の多様な夢や目標を支える教育を実現するために、高校教育・大学教育・大学入学者選抜の三位一体の改革が打ち出されたのです。

現在の大学入試は、知識の暗記・再現に偏りがちで、特定分野に秀でた高校生、グローバルな課題に取り組みようとする高校生、身近な地域課題に向き合っている高校生が、評価されにくい状況にあります。本答申は、世界に羽ばたいていく潜在力、地域創生の鍵となる課題発見・解決力を伸ばすための改革の道筋も示した点に意義があります。

そうした趣旨を受けて、文部科学省としてどのように取り組んでいくのかを、具体的なスケジュールと共に示したのが、15年1月に策定した「高大接続改革実行プラン」（以下、実行プラン）です。既存の体制にとらわれず、初等中等教育局・高等教育局・生涯学習政策局を横断する組織をつくり、省を挙げて改革に取り組んでいます。

センター試験に代わり、思考力・判断力・表現力を中心に測る評価テスト

高校現場で最も関心が高いのは、2つの新テストの導入ではないでしょうか。以前から議論されている新テストですが、実行プランでは、高校教育の学習成果を測る「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は19年度を目標に、センター試験に代わって大学進学希望者の学力を測る「大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）」は20年度を目標に、いずれも実施することとしています（P.38図1）。

いずれのテストも、15年3月に専門家会議の

第1回会議を開催し、一体的な検討に着手したところですが、専門家会議のメンバーには、高校現場に精通した識者も加わっており、可能な限り現場の声を反映しながら検討を進めていきます。

検討項目としては、「大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）」において、従来の教科型に加え、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価するための「合教科・科目型」「総合型」の具体的な枠組みや、出題形式として選択式だけでなく記述式問題の導入方法などが挙げられます。

確かに、現行のセンター試験でも、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力を問う問題は含まれていますが、まだ十分ではありません。また、記述式問題を導入すると難易度が高くなる可能性もあるので、どのような得点設定にすべきかについても検討する必要があります。

2016年度中に問題イメージを公表 当面の課題はCBTの精度

加えて、「大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）」では、大学進学希望者に多くのチャンスを与えるため、年に複数回実施することや、1点刻みの評価ではなく、段階別表示で評価し、採点はCBTで実施することについても検討する予定です。

CBTの精度には懸念を抱く先生がいるかと

はした・ひろし◎2000年、文部省（現文部科学省）入省、初等中等教育局、文化庁文化財部、高等教育局、秋田県教育庁義務教育課長、初等中等教育局教育課程課専門官などを経て、2014年10月から現職。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

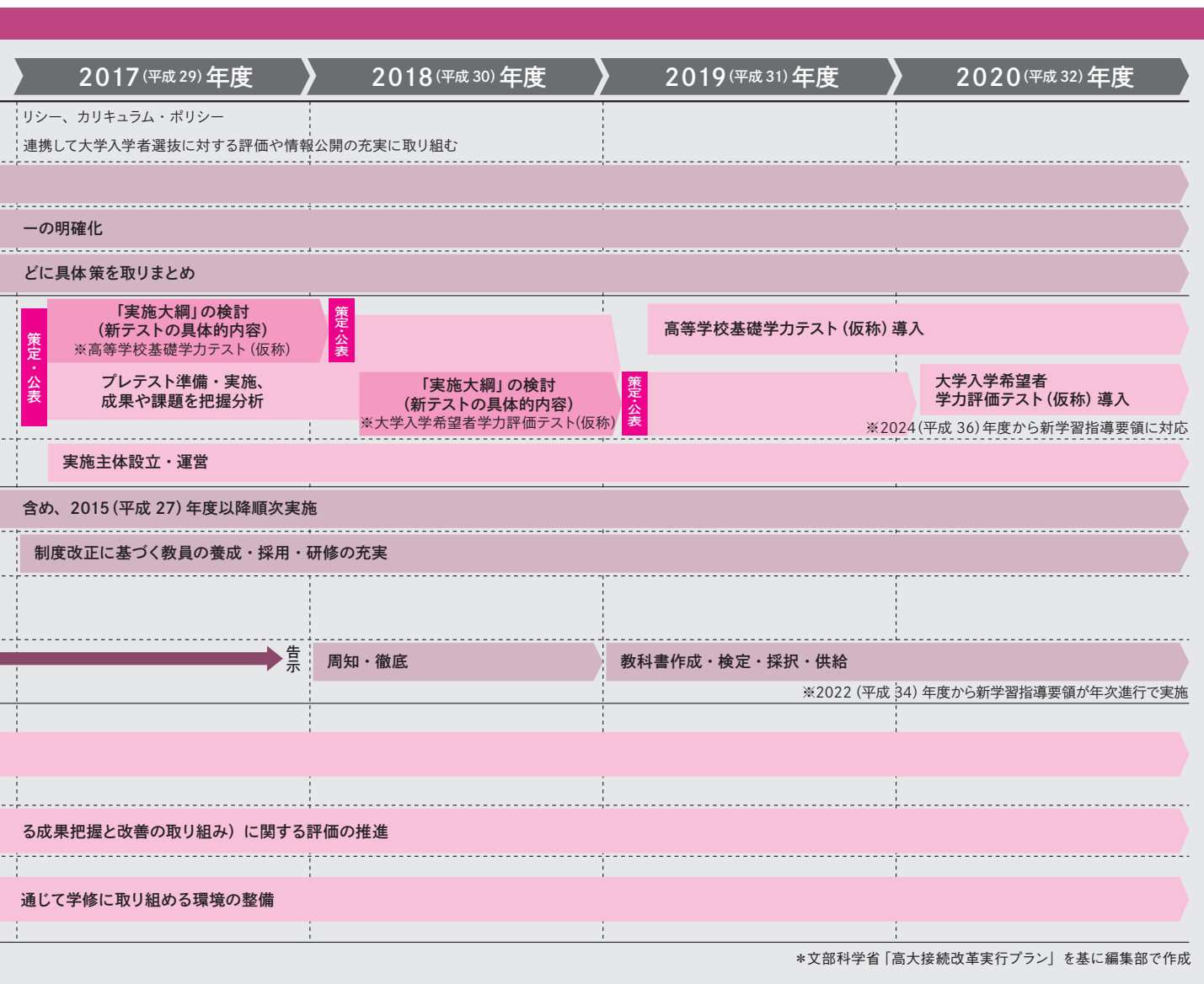
思いますが、アメリカの共通テストの中には、CBTの自動採点システムを導入しているものもあります。ただし、文章が長くなればなるほど精度が落ちてしまうのが課題です。新テストでは、アメリカの事例や課題も踏まえ、システム設計についても併せて考えていく必要があると考えられます。

専門家会議で議論された内容については、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と共に、15年中をめぐりに検討結果を取りまとめたいと思います。その上で、16年度中を目途に問題イメージ（モデル問題）を作り、17年度初めに出题内容や範囲、プレテストの内容と新テストまでのスケジュールなどを取りまとめ公表する予定です。

具体的にどのようなテストになるのかは、専門家会議で検討していくことになります。また、今後、専門家会議の傘下にワーキンググループを立ち上げ、集中的に検討していただく予定です。

必履修科目を中心に 知識・技能の定着度を測る

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、高校教育の質の維持・向上、及び生徒の学習改善を目的としたテストです。対象科目は、「国語総合」「数学Ⅰ」「世界史」「コミュニケーション英語Ⅰ」といった必履修科目を想定して検討することと



*文部科学省「高大接続改革実行プラン」を基に編集部で作成

されています。特に、英語は、民間の資格・検定試験も積極的に活用することが想定されています。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では、思考力・判断力・表現力を重視する一方で、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」では、学力の基礎を確保する観点から知識・技能の確実な習得を重視します。出題形式は、選択式だけでなく、記述式を含めることも検討しています。また、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」と同様、生徒の主体的な学びを促すために、在学中の複数回受験についても議論していきま

す。なお、両テストとも、複数回受験については、実施時期や学年など、高校現場の実情を踏まえて、現実的な方策を見定めていきたいと考えています。

また、進学時に基礎学力を証明する方法の一つとして、テスト結果を大学が入学者選抜の資料に用いることも可能とする予定ですが、その際は調査書にテスト結果を記入するなど、あくまで高校での学習成果を示す参考資料の一部として使うことが前提です。

入試改革を認証評価することで大学の個別選抜の改革を促す

新テストを導入しても、大学側の意識が変わらなければ知識偏重の入試は変わりません。多様な背景を持った学生の大学への受け入れを促

図1 高大接続改革に向けた工程表

		2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度
各大学の個別選抜改革	法令改正	中央教育審議会における審議	3つのポリシーを義務付ける 認証評価の評価項目に入学選抜を明記	※アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー ※法令改正にあわせて、関係機関・団体と
	大学入学選抜実施要項見直し	中央教育審議会の提言に基づき、2016(平成28)年度大学入学選抜実施要項から順次反映		
	アドミッション・ポリシー明確化	事例集の作成・提供	ガイドラインの作成・提供	各大学におけるアドミッション・ポリシー
	財政措置	個別選抜改革を先行して行う大学への取り組みを推進すると共に、財政措置のあり方を検討し、2015(平成27)年夏をめ		
大学入学希望者 学力評価テスト(仮称) 高等学校 基礎学力テスト(仮称)	実施内容	専門家会議における検討 ※対象教科・科目、「教科型」「合教科・科目型」「総合型」等の枠組み、問題蓄積、記述式導入方法、CBT導入方法、成績表示のあり方等	「新テストの実施方針」の検討 ※出題内容・範囲、プレテスト内容、正式実施までのスケジュール等	
	実施主体	新テストの実施主体の機能やあり方について検討		新テストの実施主体の設置に必要な法令改正等
高校教育の改革	学習・指導方法の充実	課題の発見と解決に向けた生徒の主体的・協動的な学習・指導方法の充実に必要な方策について検討。既存の取り組みも		
	教員の資質能力向上	教員養成・採用・研修について、中央教育審議会教員養成部会において検討	中央教育審議会の審議結果を踏まえた制度改正	
	多様な学習活動・学習成果の評価	専門家会議における検討 ※調査書の様式見直し、出願時提出資料の共通様式の策定等	調査書及び指導要録の改訂	
	学習指導要領の見直し	諮問 → 答申 ※学習指導要領改訂に係る上記スケジュールは、高校の過去の改訂スケジュールに基づくイメージである		
大学教育の改革	大学教育の質的転換	中央教育審議会における審議	3つのポリシーを義務付ける ※アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーSDの義務化をはじめとする、学長を補佐する体制の充実を図る	各大学における教育の質的転換
	学生の学修成果の把握・評価推進	中央教育審議会における審議	認証評価制度において、学修成果や内部質保証の評価の規定創設	学修成果や内部質保証(各大学におけ
	大学への編入学等の推進	高等学校専攻科修生の大学への編入学の制度化	募集単位の大きくなり化、入学後の進路変更、学び直しのための環境整備を推進	各大学における編入学の推進、生涯を

すために、大学が個別に行う入学者選抜（以下、個別選抜）の改革をうたっている点も、本答申及び実行プランの特徴です。

方策の1つは、個別選抜の改革を促すために、認証評価制度の中に、入学者選抜に関連する評価項目を入れることです。そうすれば、多様な学生を受け入れる入試制度改革を実行しているかを評価機関がチェックし、公表できるようになります。評価結果が社会の目に触れるとなれば、改革に向けた大学の自助努力を促す効果はあはらずです。

もう1つは、多面的・総合的な評価に転換するため、一般入試・推薦入試・AO入試といった入試区分を廃止することです。この点については、大学入学者選抜実施要項を見直して、新たなルールの構築を検討しています。具体的には、アドミッション・ポリシーに基づいた個別選抜の方法、出願要件としての「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の活用方法、調査書における「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の使い方、学力の三要素を踏まえた評価などについて、実施要項に明記することを検討しています。

個別選抜は、特に 主体性・多様性・協働性を重視

一般・推薦といった入試の枠組みを廃止するということについては、驚かれる方が多いかも

しれません。しかし、国公私立大を問わず、既に調査書や面接、プレゼンテーションなどによる多面的・総合的な評価が行われ始めており、本答申の趣旨・内容も踏まえると、入試を区分することそのものに意味がなくなりつつあります。その流れをいっそう推し進め、年齢や性別、国籍、家庭環境などにかかわらず、多様な背景を持った学生を受け入れるようなルールづくりを進めていく方針です。この新しいルールの内容は、今後の検討課題となります。

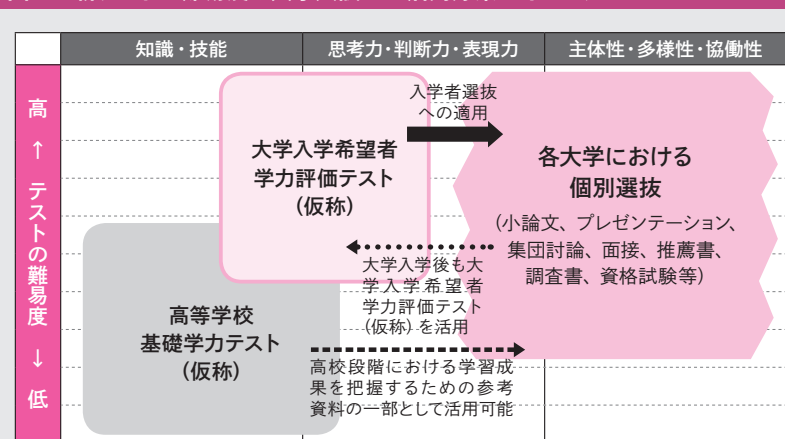
そうした改革を行った上で、個別選抜の内容は各大学に委ねます。現在の想定では、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が思考力・判断力・表現力を中心とするのに対して、個別選抜は知識や思考力等と共に、主体性・多様性・協働性を見る内容を想定しています（図2）。新テストと個別選抜の関係には整理が必要ですが、大学にとっては入試の負担が大きくなるので、国としてどのような支援が必要かも、併せて検討していきます。

高校教育改革の要は アクティブ・ラーニング

実行プランには、高校教育について重要な施策も盛り込まれています。1つは、アクティブ・ラーニングの更なる普及です。

アクティブ・ラーニングは小・中学校で実施が進んでおり、活動をしっかり行っている学校

図2 新テストの難易度と大学入試への活用方策のイメージ



*中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」を基に編集部で作成

の児童・生徒の学力は高いということが、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果に表れています。ところが、中学校、高校と学校種が上がるにつれて、次第にアクティブ・ラーニングに消極的になっていく傾向にあり、熱心に取り組んでいる場合が少なくありません。目的化している場合が少なくありません。

ただ活動をするだけでなく、生徒が事前に学

習の見通しを持ち、最後に学びを振り返らなければ知識を活用する力は身に付きません。活動の過程を工夫して、生徒一人ひとりが学びや成長を実感できる授業展開を目指してほしいと思います。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の問題イメージが発表されるまで、どのような指導をすればよいのか分からないという不安を抱いている先生も多いでしょう。現時点で言えるのは、アクティブ・ラーニングにしっかり取り組むことで、新テストへの対応は可能だということ。今後、文部科学省では、アクティブ・ラーニングに関する指導方法の充実、教員の養成、採用、研修の改善についても検討していきます。

調査書、学習指導要録を改訂し 多様な学習活動・成果を評価

高校教育の改革でもう1つ注目を集めているのが、多様な学習活動・学習成果の評価です。これについても、専門家会議の中で、調査書の様式の見直し、出願時の提出資料の共通化、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の結果の示し方と大学での活用法、指導要録における観点別学習状況の示し方などについて検討いただき、16年度中に調査書・指導要録を改訂する予定です。

多様な学習成果を調査書の様式の中でどのよ

うに記載できるようにするかが、大きなポイントになるでしょう。外部試験やボランティア活動などについては、現在は調査書に記入することになっていますが、より明確にするような工夫も必要だと考えています。

観点別評価については、これまでは調査書に記入欄がないため、なかなか高校現場に定着していませんでした。先生方にとっては負担の大きい部分ではあるかと思いますが、これについても整理してより良い方策を示していく必要があります。

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の示し方についても工夫が必要です。文部科学省としても、進学時の学力の証明の1つとして活用してほしいという思いはありますが、その一方で、記載事項を詳細にすればするほど、入試の判定材料としての比重が大きくなるおそれもあります。テスト結果を調査書の中にどのように位置付けるか、慎重に判断していかなければなりません。

全国で行うフォーラムで 改革の経過を保護者にも発信

高校教育の改革で3点目に挙げているのは、学習指導要領の見直しです。「何を教えるか」だけではなく、「どのような力を身に付けるか」という観点に立って、指導内容や学習方法・学習環境などの見直しを行い、16年度中に答申を

まとめる予定です。その後、学習指導要領の告示・周知徹底、教科書検定などを経て、22年度から年次進行で実施していく予定です。

今後、文部科学省としては、大学や高校現場のみならず、保護者にも理解していただけるように、本答申や実行プランの趣旨を随時発信していきます。具体的な検討はこれからの部分もありますが、専門家会議の状況を発信して、実行プランにも盛り込まれている「高大接続改革実行フォーラム」を全国展開していく中で、改革の内容をアピールしていきたいと考えています。

これまで、学校現場は「教える内容」を重視し、知識・技能を身に付けさせることに力を傾けてきました。子どもが社会の荒波を乗り越え、自立していくためには、自分の頭で考え主体的に行動できる力、他者と協働して物事をつくり上げていく力、答えのない課題に解決の道筋を見いだせる力を付けていかなければなりません。現場の先生方も、そうした時代の趨勢を見据えて、真の学力を育むためには何が必要かを考え、日々の教育活動に取り組んでいただきたいと思えます。実行プランの方向性は、現行の学習指導要領の中に既に盛り込まれている部分もあります。学習指導要領の意図をもう一度見直し、現場レベルで進められることを期待しています。

生殖機能の仕組みを明らかにし、 家畜の繁殖効率を高める

名古屋大大学院 生命農学研究科 ^{つかむら} 東村博子研究室

生殖は生物の種の保存にとって欠かせない重要な機能だが、かつてそのメカニズムは多くの謎に包まれていた。しかし近年、生殖科学の知見は次々にその謎を解明し、生殖機能の根幹に迫っている。生殖科学の第一人者である名古屋大大学院生命農学研究科の東村博子教授によって、脳内と卵巣それぞれのホルモンを結び付けるメカニズムが特定され、排卵の仕組みが明らかにされたことも、その業績の1つだ。東村教授に、最新の研究とその成果を聞いた。

フローチャートで分かる東村博子研究室

大学院生の 主な出身分野

農学

工学

など

◎家畜の生殖に関する研究が中心なので、農学部出身の学生が多い。ただし、解明されていないことが多い脳内の仕組みを研究対象とするため、工学など農学分野以外からの学生も受け入れ、卒業生として活躍している。また、これまで、タイやフィリピン、バングラデシュ、カンボジアなどからの留学生も積極的に受け入れてきた。

研究にかかわる 学問分野と研究内容

農学

生殖科学

医学

薬学

◎農学の一分野であるが、脳の仕組み解明や薬剤開発などに関連するため、医学や薬学とのつながりも深い。

研究成果と 社会のかかわり

家畜の
繁殖効率向上

家畜に対する
繁殖促進剤の
開発

害獣に対する
繁殖抑制剤の
開発

など

◎生殖機能について研究して得た知見は、家畜の繁殖効率向上に直結する。また、家畜の繁殖を促す薬剤や害獣の繁殖を抑える薬剤の開発にも取り組んでいる。

謎を解き明かしたいという好奇心が不可欠

生殖科学が求める学生像

物事を不思議だと感じる力

謎に迫る過程を楽しむ姿勢

社会に貢献しようとする使命感

哺乳類の脳は周囲の環境に応じ、生殖機能をコントロールしています。例えば、ストレスがかかったり、ホルモンの分泌などに異常が生じたりすれば、生命の危機だと判断して生殖機能を低下させ、その分のエネルギーを生命維持に充てます。厳しい練習を積む女性アスリートに月経不順が見られるのも、そのためです。生殖機能を制御する仕組みにはよく分かっていないことがまだまだたくさんあります。生殖科学はそれらを解明するための学問ですから、「物事の不思議」を見つけ、謎を解こうとする気持ちが不可欠です。

未知の世界を探究するため、答えは簡単には見えてきません。しかし、途中で投げ出してしまつては謎は永遠に残りますから、先が見えなくとも諦めずに研究を続けることが大切です。そのため、「分からないことを分かるようにする」というその過程自体を楽しめる姿勢が求められます。また、生殖科学の研究は、家畜の繁殖効率の向上に直結し、食料自給率を高めることにつながるなど、多大な社会的意義があります。そのため、「食料生産の向上に貢献し、人々の暮らしを豊かにしたい」という使命感を持った人に学んでほしいと考えています。

高校生へのメッセージ 人間は何歳になっても無限の可能性を秘めていると、私は考えています。まだ人生を始めたばかりの高校生であれば、なおさらです。好きなこと、興味があることに何でも挑戦してみましょう。始める前に「自分に出来るだろうか?」と不安になるより、「自分は出来る!」と信じて第一歩を踏み出してみることが大切です。



東村博子 教授

つかむら・ひろこ 名古屋大学院生命農学研究科教授。同大男女共同参画室長。同大学院博士課程教育リーダーディングプログラム「ウェルビーイング・イロアジア」実現のための女性リーダー養成プログラム「プログラムコーディネーター」。名古屋大学院博士課程を修了後、アメリカ・カンザス大医学部博士研究員、名古屋大学院生命農学研究科准教授などを経て、現職。家畜繁殖学会島村賞、下垂体研究会吉村賞を受賞。

研究を志したきっかけ

自身の関心から たどり着いた農学部で 生殖機能の不思議を知る

私は、子どもの頃から生き物が好きでした。母が動物嫌いだったため自宅で飼うことは、難しかったものの、小学生の頃は夏休みの自由研究などで生き物をよく観察しました。父に借りた顕微鏡で池の水を見て、小さな生き物がたくさん動いている様子に胸を躍らせたことを覚えています。ただ、ミッシヨン系の女子中学校に入学した後は受験勉強をすることもなく、女子高校、大学へとそのまま進学したので、毎日を気楽に過ごしていました。

その時、生き物への関心を思い出して、「今度は本気で勉強してみたい」と思ったのです。「もう一度大学に行けたらなあ」という私の何気ない言葉に、父が「1年間の勉強で合格できれば、学費を出す」と約束してくれたので、私はすぐに受験勉強に取り組み始めました。睡眠と食事を除く1日の大半の時間を机に向かつて頑張った結果、翌年、名古屋大農学部へ合格できました。

農学部では、動植物の生育にかかわるあらゆる理論や技術を学びました。中でも私が最も感銘を受けたのは、家畜の生殖についての授業です。生殖機能は種の保存に不可欠ですが、個体の生存には関係がありません。例えば、卵巣を摘出しても雌牛は生きていけます。そのため、栄養失調やストレスなどによって生命が危うくなると、個体は生命の維持を種の保存より優先して、生殖機能を低下させます。つまり、個体の存続の前には切り捨てられてしまう機能が、子孫の繁栄の鍵を握っているという事です。私は命を巡るこの不思議な関係に強い関心を持ち、生殖科学の研究を志したのでした。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

排卵のメカニズムを 世界で初めて 解き明かす

哺乳類の生殖機能は、脳神経やホルモンによって制御されています。そのメカニズムを解明し、家畜の繁殖効率を高めることが、私の研究テーマです。

1 マの1つです。家畜の繁殖において雄よりも重視される、雌の生殖機能の研究に力を入れています。

2 雌の生殖機能の1つである排卵は、卵巣内で分泌される女性ホルモンであるエストロゲンが脳神経を刺激することで、脳神経から放出されるホルモン「GnRH」が卵巣を活性化させて起こります。しかし、エストロゲンが脳神経のどこを刺激し、GnRHを放出させているかは、謎に包まれていました。2001年にキस्पепチンという脳内タンパク質とそれを生産する神経細胞が発見されたことで、研究が大きく前進しました。キस्पепチンの発見者との共同研究に携わっていた私は、キस्पепチンの研究にすぐに着手しました。エストロゲンを与えるマウスの群と与えないマウスの群、両方の脳神

経細胞を観察しました。すると、エストロゲンを与えたマウスのキस्पепチン神経でヒストンタンパクが変化してキस्पепチン遺伝子の発現がコントロールされ、その下流にあるGnRHを調節することが分かりました。つまり、エストロゲンとGnRHの間に介在し、両者を結び付ける物質は、キस्पепチンだと特定できたのです。これは、排卵を調節するキस्पепチンの遺伝子発現がエストロゲンで制御される仕組みを世界で初めて解明した研究であり、貴重な発見です。更に、遺伝子操作で作った、キस्पепチンのないラットは、卵巣が萎縮しエストロゲンが分泌されなかったため、生殖に果たすキस्पепチンの機能が裏付けられました。キस्पепチンの作用を応用した新しい薬剤の開発にも、他大学と連携して取り組んでいます。キस्पепチンを放出させる薬剤が出来れば、排卵を促し家畜を効率良く繁殖させられるようになるでしょう。一方、キस्पепチンの放出を抑える薬剤は、現在過剰に増え、自然環境や農家に悪影響を与えている猪や鹿などの害獣の繁殖を抑制できるはずで

食料問題の解決に 貢献できることは 研究の醍醐味

5 日本のカロリーベースの食料自給率は、先進国では最低の水準である40%前後で推移しています。自給率の高い米の消費が

減り、畜産物の消費が増えたことが大きな要因です。家畜の餌の多くを外国に依存していることから、食料自給率は下がることとなります。

輸入に頼る食生活が続くと、世界的な食料難が顕在化した際には、日本は食料確保が困難になります。国力に任せて外国から食料を買えば、他国の人々が飢えるかもしれません。食料自給率の改善が急務ですが、食生活をすぐに変えるのは難しいので、家畜の繁殖効率を高めることが効果的な対応策として考えられるのです。生殖科学の研究が更に進めば、生殖と繁殖を自在にコントロールできるようになるかもしれません。それは、世界中の食料問題を解決する可能性さえ秘めています。人間の食料問題の解決に貢献できることは、研究の醍醐味の1つです。

用語解説

1 排卵

卵巣から卵子が放出されること。

2 エストロゲン

子宮などの女性性器の発育、第2次性徴の発現、子宮内膜の増殖などを促す女性ホルモン。

3 GnRH

卵巣などの性腺を刺激するホルモンの放出を促すホルモン。

4 ヒストンタンパク

キस्पепチン遺伝子を巻き取って収納しているタンパク質。

5 カロリーベースの食料自給率

国内の食料消費が、国産どの程度賄えているかを示す食料自給率の指標の1つ。1人1日当たりの供給熱量から算出する。

6 種付け

家畜の繁殖や品種改良のために、優良種の雄を雌に交配させること。

家畜の受胎率向上に 自分の手で貢献したい

池上 花奈さん

いけがみ・かな 名古屋大学院生命農学研究科博士課程1年。愛知県・私立愛知淑徳中学・高校卒業。



Q なぜこの研究分野に進んだのですか

A 私は、子どもの頃から獣医やイルカの調教師といった動物とかかわる職業に憧れていました。高校時代は数学や物理、生物など理系の教科・科目が好きだったため、大学は農学部に進学しました。生殖科学に興味を持ったきっかけは、3年生の時、アジアの発展途上国での2週間の農業研修に参加したことです。家畜の種付けの大変さなどを身をもって感じ、生殖効率の向

上に貢献したいと強く思うようになりました。そこで、私は東村教授の研究室の門をたたいたのです。

Q 東村教授の研究室での研究内容を教えてください

A 卵胞の発育メカニズムについて研究しています。卵胞は卵巣内で卵子を包んでいる細胞で、成熟すると、脳神経を刺激する女性ホルモンであるエストロゲンを分泌します。私は、この卵胞と、生殖に重要な役割を果たす脳内タンパク質キスペプチンとの関係を解明することを目指しています。

キスペプチンを生産する神経細胞であるキスペプチンニューロンは、脳内に2つあります。その1つは排卵を制御する機能があることが、東村教授の研究で明らかになりました。もう1つは卵胞の発育をつかさどっているのではないかと考えられています。実態はまだよく分かっていません。そこで、マウスやラットのキスペプチンニューロンを、人工的に作り出した脳内と同じ環境で培養します。生きたままの状態を観察することで、キスペプチンニューロンが作り出す神経活動がどのよ

うな条件で活性化するかを調べるのです。研究が十分に進めば、キスペプチンニューロンを中心とした卵胞の発育メカニズムを解明できるはずです。

畜産業では、乳牛などの受胎率の低下が長年の課題です。その要因の1つは卵胞の発育不全で、今のところ根本的な解決策がありません。卵胞の発育メカニズムを解明すれば、発育不全の予防・治療方法の開発につながるかと期待しています。

Q 高校生へのメッセージをお願いします

A 私は高校まで、教科書や参考書の内容を「覚える」勉強をしてきました。学習の質を変えなければと気付いたのは、大学入学後

間もない頃です。講義を聴いても文献を調べても分からないことを質問すると、教授が「それはまだ解明されていない」とおっしゃったのです。答えの出ていない問題に取り組む大学での学びは、簡単ではありません。しかし、だからこそ追究していくことに魅力を感じます。自分なりの工夫や努力をし、その度に新たな発見があるからです。

皆さんにも、その面白さに早く気付いてほしいと思います。そこで、提案があります。興味のある分野の学会の公開セミナーに参加してみませんか？ 最先端の学問でも分からないことや、その解決に向けた研究内容が見えてきて、未知の領域に挑む魅力がきつと味わえるはずです。

私の高校時代

部活動と勉強の両立で得た 時間を管理する習慣

●中高一貫校で6年間、バスケットボール部に所属していました。スポーツ推薦で入学する生徒が加わる高校では、練習が中学時代とは桁違いに大変になりました。平日は放課後に加え朝や昼休みにも練習があり、疲れ果てて夜7時過ぎに帰宅する……そんな毎日でしたが、部活動のせいで成績が落ちたとは思われなくなかったので、予習・復習には必ず取り組みました。

だらけてしまわないように、その日のうちにすべき学習内容を書き出し、得意の数学を1時間、10分間の休憩を挟んで苦手の地歴を30分間というように、スケジュールを立てました。厳しい練習と勉強を両立できたのは、この時間管理のおかげだと思います。

時間を管理する習慣を身に付けたことは、自分の研究の他に、共同研究など幾つもの研究を並行して進める必要がある大学院での生活においても、とても役立っています。

*プロフィールは2015年3月時点のものです

生徒に付けたい力を起点とした授業づくりへの転換を！

これからの社会を生きていく力を育む アクティブ・ラーニングとは？

次期学習指導要領の改訂に向けた審議が始まった。審議の主要事項の1つに挙げられているのが、アクティブ・ラーニングだ。現行課程でも、知識・技能の活用を図る活動や言語活動の充実が求められており、その方向性が推し進められると予想される。そもそもアクティブ・ラーニングとは何か。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下に設置された教育課程企画特別部会の委員を務める、横浜国立大の高木展郎教授に話を聞いた。

新しい学力観に基づいた 指導が求められている

アクティブ・ラーニングとは、学習者が能動的に取り組む学習形態のことです。学習者が自分の考えを書いたり発表したり、グループで課題解決に取り組んだりといった活動が主に挙げられます。そうした活動が重視されている背景には、これからの時代に通用する新しい学力の育成が求められていることがあります。

今や社会は、グローバル化や情報化が加速度的に進み、変化が激しく、予測が難しい状況になっています。

そうした社会を生きていく力を子どもたちに育むために、どのような教育活動をしていけばよいのが議論され、様々な実践がされてきました。

そうした中、2007年、学校教育法が一部改正され、学力の重要な要素として次の3つが示されました。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

学力とは、知識・技能のみならず、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、そして学習を自ら進めていく態度も含まれると、初めて

定義されたのです。

これまでの授業は、教師による講義型が多かったと思います。生徒は先生の話聞き、板書をノートに書き取ることが中心で、テストでは、覚えた知識をいかに速く、正確にアウトプット出来るかが重視されてきました。そうした知識・技能の習得だけでなく、新しく学力として定義された、知識・技能を活用する様々な力や、主体的に学習する態度を育むための学習形態として、アクティブ・ラーニングが打ち出されたのです。

先生自身が受けてきた教育やこれまで行ってきた授業に基づいた学力観から脱却するのは、容易なことでは

はないでしょう。しかし、学力の定義は、時代や社会に応じて変化する

という認識を持つ必要があるとも考えられます。例えば、知らないことがあっても、今はインターネットで調べれば即座に分かります。ですから、「情報を活用する」といった力から、「情報を活用する」といった力からより必要となり、根拠に基づいて自分の意見を発信する力が重視されています。このように、社会の状況に応じて、生きていくために必要な力は変化していくのです。

ここで誤解しないでいただきたいのは、一斉授業などによる知識・技能の習得は、新しい学力に定義されている通り、今までと同じように大



横浜国立大教育人間科
学部教授、学部長特任補
佐（教職大学院担当）
高木展郎
たかぎ のぶお

兵庫教育大大学院学校教育研究科
言語系修了。専門は教育方法学、
国語科教育学。東京都公立中学校
教諭、神奈川県立高校教諭、筑波
大学附属駒場中学・高校教諭、福
井大、静岡大を経て現職。近著に
『変わる学力、変える授業。―21世
紀を生き抜く力とは―』（三省堂）。

切だということ。ただ、習得したものを自分で考えて捉え直し、自分のものとしてアウトプットする学習形態も、これからの社会を生き延びていく力を付けるために必要なのです。

他者がいるからこそ、 気付き、主体性が生まれる

アクティブ・ラーニングは、文部科学省の定義では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」とされています(図1)。私は、それに「双方向性」を加え、「主体的・能動的で双方向性のある、自律的かつ協働的な学び」であると考えます。

メタ認知の意識を基盤とした主体的・自律的な学習であり、豊かなコミュニケーション活動を経た協働的な学習を含むものです。

1つめの要素は、「主体的・能動的」であることです。例えば、英語の授業で、生徒が教科書に書いてあるスキットを言い合うだけでは、活動に思考が伴っていませんから、活動が盛り上がったとしてもアクティブ・ラーニングとはいえません。スキットを活用して自分で考えた英文を言い合う活動にしてこそ、アクティブ・ラーニングになるのです。

2つめの要素は、「双方向性」であることです。生徒は必要性を感じれる

ば自ら学びに向かいますが、その必要性を自覚させるためには、他者とのかわりが有効です。単純な例でいうと、みんなで徒競走をすれば、自分は足が速いか遅いか明白になります。もし遅いと気付いた時、「もっと速く走りたい」「このままでよい」と思いを巡らすことでしよう。もつと速く走りたいと思えば、そのためはどうすればよいのかと工夫します。他者と比較をすることによってメタ認知ができ、自分で考えて行動する態度、つまり主体性や能動性が生み出されるのです。

覚えることは1人でも出来ます。しかし、自分の思いや能力に気付き、自分を変えていくことは、相対化する他者がいなければ出来ません。他者を必要とするアクティブ・ラーニングは、集団で学ぶ学校でこそすべき学習なのです。

生徒に付けた力のために 有効な指導法を選ぶ

アクティブ・ラーニングをどのように取り入れればよいのか、いくつかのポイントを挙げたいと思います。

図1 文部科学省によるアクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

*中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」（2012年8月）中の用語集より抜粋

最も強調しておきたいのが、アクティブ・ラーニングには決まった型はないということです。アクティブ・ラーニングには様々な手法（P.48図2）がありますが、「この場面ではこういう手法がよい」といった型はありません。ましてや、全ての授業でアクティブ・ラーニングを取り入れる必要もありません。生徒に付けた力を明確にし、そのために有効な指導法を選ばなければいけません。例えば、知識・技能の習得では、従来の一斉授業が効果的な場合があるでしょう。ただ、その習得した知識を定着する

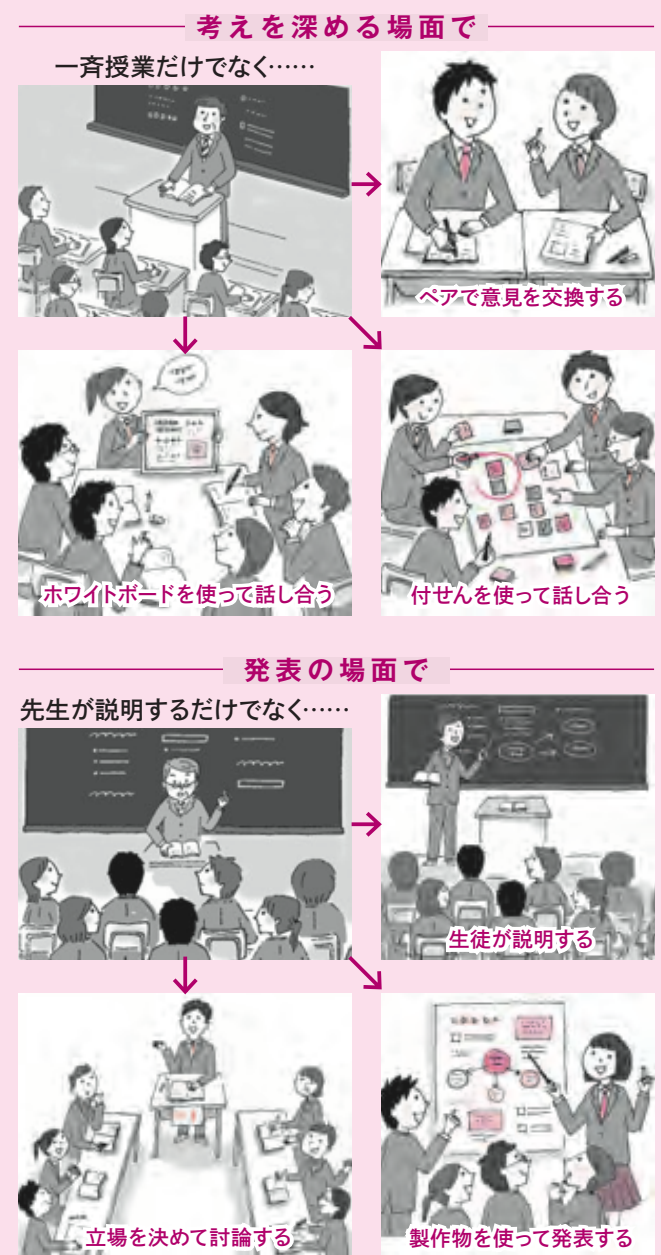
ために、1人で黙々と演習問題に取り組むのではなく、「ペアで意見を交換する」「生徒が説明する」といった活動が有効でもあるのです。

このように考えると、アクティブ・ラーニングは、普段の指導と何ら変わりがないと感じられるでしょう。確かにその通りで、これまでは無意識に行っていたアクティブ・ラーニングを、意識して授業に組み込むことによって、付きたい学力を見据えた学習をより効果的に行う。それが、アクティブ・ラーニングを実践する際に求められていることなのです。

自己相対化に必要な 1人で考える場と振り返り

アクティブ・ラーニングを効果的に行う1つめのポイントは、必然性のある場面で、生徒が考えたくなる問いを設定することです。例えば、2人で相談しながら答えを考え、発表するとすれば、生徒は活動に参加せざるをえません。更に、答えが複数ある問い、正解がない問いは、生徒から多様な考えが出てきて、各自の思考が深まります。

図2 アクティブ・ラーニングの充実に向けて



*文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」のイメージ例を基に編集部で作成

2つめに、1人で考える場を設けることです。自分の考えを明確にする、分かったこと・分からないことを自覚した上で他者と交流することで、自己相対化が出来るからです。

その自己相対化の場面として、3つめに挙げたいのが振り返りです。授業で学んだことを思い返し、再構成し、吟味し、自分の中で意味付けをすることで、気付きを生みます。例えば、数学では、授業の最後にその時間に学んだ公式などを活用する

演習問題に取り組むでしょう。生徒は授業を思い返しながら問題を解くはずですが、つまづいた箇所があれば、そこが理解できていないと自覚し、次の学習に結び付きます。同様に、

アクティブ・ラーニングでも、他人の意見を聞いて自分のどこが変わったのかを自覚しなければ、感想レベルで終わってしまいます。また、絶えず他を意識する自己相対化は、1人よがりにならず、社会性を身に付けるためにも重要といえるでしょう。

教師に求められるのは 「待つ」姿勢

ペア・ワークやグループ・ワークで、成績下位層をどう支援すればよいのかという声を聞きますが、そうした学力差の中での活動は生徒にとって学びのチャンスです。分かっている生徒には相手に教えることで自分の理解を深める機会となり、分からない生徒には教師とは違う視点での説

明を聞く機会となります。アクティブ・ラーニングは、生徒が自分で考え判断したことを、生徒同士でコミュニケーションを取りながら進める学びです。教師はつい口を出したくなりますが、そこは我慢です。私も大学の授業でグループ・ワークをする際、最後のまとめの5分間以外は話さないことを、自分のルールにしています。教師はその間、活動の様子を見取り、生徒個々の定着度をつかんで、効果的な個別指導に結び付けましょう。

もう1つ、注意したいのが評価方法です。アクティブ・ラーニングを取り入れたのに、評価は従来通りのペーパーテストのみでは、生徒もなぜこのような授業を行っているのか理解できません。新たに導入された観点別評価の「意欲・関心・態度」「思考・判断・表現」という項目を、アクティブ・ラーニングではしっかりと評価していただきたいと思えます。

学校として単元計画を練り アクティブ・ラーニングを組み込む

現行の学習指導要領では学習内容が増え、授業時間数に余裕がないの

が課題であることは理解しています。だからこそ、「生徒にどのような力を付けたいか」をしっかりと考えて単元計画を練ることが必要ではないでしょうか。単元計画を生徒に提示すれば、生徒も見通しを持って学習に臨めるという利点があり、その重要性は学習指導要領にも示されています。

知識・技能の習得は重要です。ただ、新たな学力である「思考力・判断力・表現力」を付けることと、「主体的に学習に取り組む態度」を涵養することも求められています。教科書の順番どおりに並べた教育課程ではなく、自校の生徒に付けたい力から考えた教育課程を立て、一斉学習とアクティブ・ラーニングのそれぞれの良さを生かして両立を図っていただきたいと思えます。

その際に留意しなくてはいけないのは、教育課程の立案に学校全体で取り組むことです。学校で提供される教育活動が教員個々で異なってしまうと、生徒は困惑してしまいます。次期学習指導要領の検討事項には、「チーム学校」が挙げられています。学校が組織全体として学校力を高め、高めていくための学校運営のあり方、

教員と事務職員、学校外の専門家や地域との連携などが検討課題です。つまり、学校全体としての教育活動がますます問われるようになっていきます。高校の学習内容は専門性が高く、授業は個々の先生に任せられる傾向にあります。そうした体制も見直す時が来ているのです。

「生徒」を主語に 教育活動を組み立てていく

大学では、2012年8月、中央教育審議会の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」においてアクティブ・ラーニングの重要性が指摘され、既に国公私立を問わず、授業に取り入れられてきています。大学での学びに思考力・判断力・表現力等が必要なことから、大学入試もそれらを測る問題に転換されつつあります。そのような大学の動きを受けて、高校でもアクティブ・ラーニングが徐々に取り入れられ始めています。元々、高校でもその重要性が指摘されていたわけですから、取り入れるきっかけが大学入試であってもよいと思えます。ただ、

それだけを意識した活動では、いずれ形骸化することが容易に想定されます。大学入試に合格することや就職することが、教育のゴールではありません。生徒がその先にある人生をたくましく歩んでいく力を育むことが教育の目的であることを、今一度思い返していただきたいと思えます。

学校の主語は「生徒」です。教師が教えることを伝えるばかりでは、生徒は授業への意欲を持っていません。生徒は授業への意欲を持っていないのか。「生徒にどんな力を付けたいのか」を起点に指導を組み立てれば、生徒が必然性を持って学ぶ空間が出来るのではないのでしょうか。

1872年に学制が公布され、子どもが学校で学ぶという近代的教育制度が始まりました。その約70年後、1945年に太平洋戦争が終わり、現代に至るまでの教育制度が整備されました。更に70年が経ち、学校教育は再び変わろうとしています。科学技術の発展により、文明は転換期を迎えているともいわれています。そうした時代において求められる学力が今までと異なるのは自然な流れであり、それと共に教育も変わっていくべきなのだと思います。

「軸」と「修正力」を育む場として欠かせない
教科外活動

2月号の特集に掲載された全ての教科外活動は、どれも生徒の「軸」と「修正力」を育む非常に優れた取り組みである。生徒が生き生きと高校生活を送っている学校は、いずれも教科外活動が充実している。視点をええれば、充実した教科外活動は教科学習や将来設計にも良い影響を及ぼすものである。座談会からは、教科外活動を通して生徒同士が高め合う場やロールモデルと出会う機会を提供し、それぞれの学校において生徒の「軸」と「修正力」を育む教育がなされていることがよく伝わってきた。「福井県立若狭高校・中森一郎」

部活動での努力が学習に良い影響を与えることを実感

2月号の特集で取り上げられた、千葉県立船橋古和釜高校こわがまの事例が大変参考になった。自分の好きな野球がより上達できるように工夫する中で、自信を持つようになったこと、そして野球だけでなく、自身の生活・学習全般の細かいところまで気を配れるようになり、それが大きな向上心につながっている様子がよく分かった。かねてから、高い目標を実現するには、自分のやるべきことに対して手を抜かずに取り組むことが大切だと感じていた。好きなことにしか目を向けることが出来ない生徒を指導するに当たり、大変参考になった。

「富山県・匿名希望」

Reader's VIEW

Volume 1

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

小規模校という「武器」を生かし、視野を広げる活動に共感

2月号「指導変革の軌跡」の長崎県立奈留高校の取り組みに関心を持った。今後、地方では少人数の高校が増えていく。固定化した狭い環境で、どれだけ広い視野を持たせられるかが重要だと思ふ。小規模だからこそ、小・中学校との連携は密接に出来るだろうし、異年齢の交流もしやすいはずだ。規模の小ささをむしろ武器にしたい。外に出掛けて刺激を受けることも出来るし、インターネットでは全世界とつながれる。強みを生かしつつ、出来ることにどんどんチャレンジしてほしい。

「岡山県立鳥城高校・杉山義則」

生徒の思いを受け止め、教師も真剣に対応を

2月号の「生きたデータの徹底研究」で紹介された「先輩データから見る2年生の悩み克服シート」の欄に、「先生へお願い」の項目を設けた点が印象に残った。授業評価などを設けても、学年が上がるに連れて適当に書く生徒が多くなるのが現状だ。生徒が真面目に書いたものには教師も真剣に対応し、そうしたことを低学年から積み重ねていけば、教師も生徒も良い方向に向かうのではないかと感じた。

「山形県・匿名希望」

教師川柳

春春春満面の笑み旅立ちぬ

奈良県・私立奈良育英中学・高校・久保貴芳

「VIEW21」高校版は
ウェブサイトでも
ご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご覧いただけます。誌面のPDFや「改良！指導ツール ピフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎今号の特集で紹介した3校の事例、そして座談会に共通していたのは、探究学習が、生徒の教科の学びへの意欲と、教師の教科指導力を向上させる可能性を秘めていることを、実践されている先生方が実感している点です。生徒が教科学習に主体的に取り組むようになれば、探究と習得のベストミックスの実現に大きく近付くのではないかと感じました。次号は、数学・理科が新課程での出題となった2015年度入試の結果を通して、新課程指導を振り返ります。(柏木)

VIEW21 4月号 Vol.1

2015年4月7日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンタコ
 執筆協力 中丸 満
 撮影協力 荒川 潤、田中秀和、谷口 哲、福山 哲、ヤマグチイッキ
 イラスト協力 浅沼リカ、伊藤美樹

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2015

VIEW21

2015
June
6月
Volume 2

次号は
6月23日発行(予定)
「VIEW21」高校版は
年6回の発行です

COVER STORY
教師と生徒の肖像

可能性を信じる

表紙の学校 神奈川県立茅ヶ崎西浜高校 酒井まゆみ先生



「神奈川県立茅ヶ崎西浜高校の生徒は皆、明るくて、やさしい。生徒会役員や実行委員でない生徒も、行事の運営やボランティアにとっても協力的で、学年を超えて仲が良いのが自慢です！」と、卒業を控えて熱く語る元生徒会役員。酒井まゆみ先生が心掛けてきた指導は、生徒個々の良さを掘り起こし、周りに伝えること。担当する国語の授業では、生徒の鑑賞文を紹介し、どう思うかをクラス全員に投げ掛ける。中学生対象の学校説明会は、生徒会役員を中心に生徒が前に出て、自らの言葉で学校を紹介する形に変えた。「本校の生徒は、自分にあまり自信がありません。他の生徒の活躍に触れさせ、自分にも出来るかもしれないという意欲を引き出したのです」と語る。

2年前にキャリア支援グループのリーダーとなってからは、「西浜高校36ヶ月キャリア計画」の立案を牽引したり、希望進路別の勉強会を開いたり、グループの先生方と協力しながら生徒や学年団を支援してきた。その根底にあるのは、「自分が行きたい進路に挑戦してほしい」という思い。今では一般入試に挑戦する生徒が以前の5倍となり、合格者も着実に増えている。そうした上級生の成果が下級生の目標にもなっている。「進路先がなかなか決まらず、苦しい時間を過ごしても、自分と向き合い、最後まで頑張った経験は、卒業後もずっと生きていくと思うのです」。

「先生が『良いアイデアだね』と言ってくれたから、自信を持って挨拶運動を続けられました」「入試直前に、先生が『現代文の授業でこれだけ書けているのだから大丈夫!』と励ましてくれたから、受験を頑張れたんです」と、3年間の思い出を語る生徒たち。酒井先生の温かな笑顔に後押しをされて、生徒たちはこれからも前へ前へと進んでいく。

VIEW21

ビュー21 高校版 Volume1 2015年4月号
2015年4月7日発行 / 通巻第351号 発行人 山崎昌樹 編集人 春名啓紀 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
©Benesse Corporation 2015

お客様
サービスセンター

【フリーダイヤル】 0120-350455

受付時間 月～金 8:00～19:00 / 土 8:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)
株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17